

介護予防・日常生活圏域二一ズ調査
在宅介護実態調査
結果報告書（調査概要）

令和5年7月
八雲町

目 次

第1章 調査の概要.....	1
1 調査の目的	1
2 調査概要	1
3 回答結果	1
4 調査結果利用上の注意.....	1
第2章 調査結果.....	2
1 介護予防・日常生活圏域二一ズ調査.....	2
(1) 回答者の属性・住まいの状況.....	2
(2) 介護の状況.....	3
(3) 運動について.....	4
(4) 外出について.....	5
(5) 口腔・栄養について.....	6
(6) 社会参加について.....	7
(7) 健康について.....	8
(8) 認知症について.....	9
2 在宅介護実態調査.....	10
(1) 在宅生活の継続を考えている人.....	10
(2) 主な介護者の状況.....	10
(3) 今後の就労継続見込.....	11
(4) 在宅生活の継続に必要な支援・サービス.....	11
第3章 判定結果.....	12
1 項目別評価	12
(1) 機能	12
(2) 日常生活.....	26
(3) 社会参加.....	28
(4) 生活機能総合評価.....	32

第1章 調査の概要

1 調査の目的

令和5年度の高齢者保健福祉計画及び介護保険事業計画の見直しに当たり、既存データでは把握困難な高齢者の実態や意識・意向を調査・分析し、計画策定の基礎資料とすることを目的に実施しました。

2 調査概要

(1) 介護予防・日常生活圏域二一ズ調査

- 調査時期 : 令和5年1月～令和5年2月
- 調査対象者 : 要介護認定を受けていない65歳以上の方及び要支援1・2の方
- 調査方法 : 郵送による配布回収

(2) 在宅介護実態調査

- 調査時期 : 令和5年1月～令和5年3月
- 調査対象者 : 要介護認定を受けている方（施設入所者及び医療機関等へ入院されている人を除く）
- 調査方法 : 郵送による配布、訪問面接による調査

3 回答結果

	調査対象者数	有効回収数	有効回答率
介護予防・日常生活圏域二一ズ調査	1,500	765	51.0%
在宅介護実態調査	228	105	46.1%

4 調査結果利用上の注意

- 端数処理の関係上、構成比（%）の計が100%とならない場合がある。
- 図表の構成比（%）は小数第2位以下を四捨五入したものである。
- 複数回答（複数の選択肢から2つ以上の選択肢を選ぶ方式）の設問は、すべての構成比（%）を合計すると100%を超える場合がある。
- 図表の ” n=” は、各設問の対象者数をあらわす。
- 表の上段は構成比、下段は人数をあらわす。
- 本文中の設問の選択肢は簡略化している場合がある。

第2章 調査結果

1 介護予防・日常生活圏域ニーズ調査

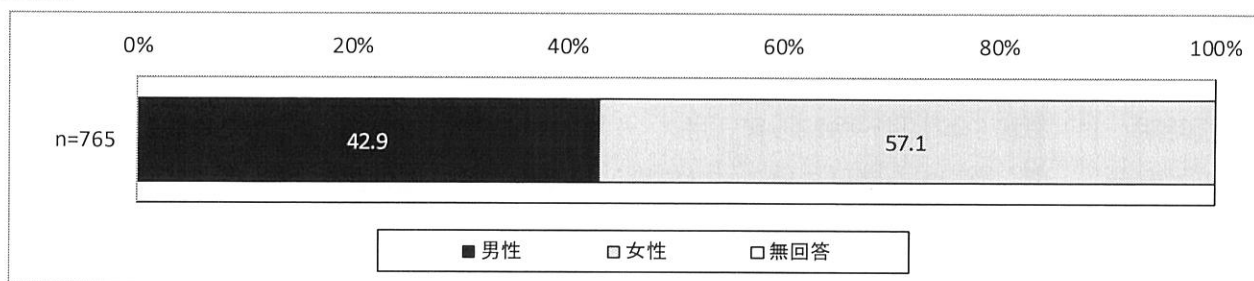
(1) 回答者の属性・住まいの状況

回答者の属性について、男性が42.9%、女性が57.1%と女性のほうが多くなっています。年齢では、70～74歳が最も多く、次いで65～69歳、75～79歳の順となっています。

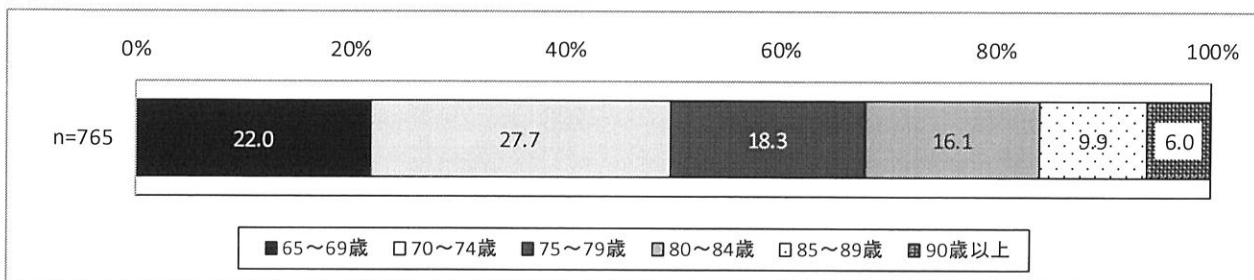
家族構成について、1人暮らしが32.5%、夫婦2人暮らし（配偶者65歳以上）が32.8%となっており、合わせると7割近くが高齢者のみの世帯となっており、地域における見守りが必要となっています。

現在の暮らしについて、3割以上（「大変苦しい」が7.8%、「やや苦しい」が26.8%）が経済的に苦しいと回答しています。

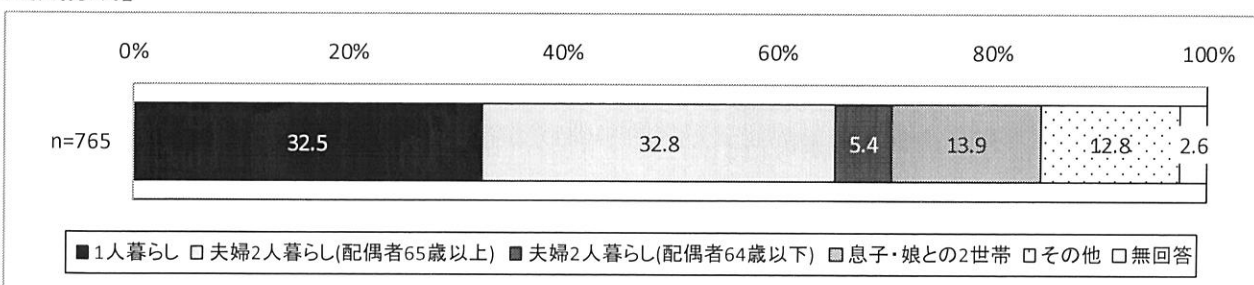
【性別】



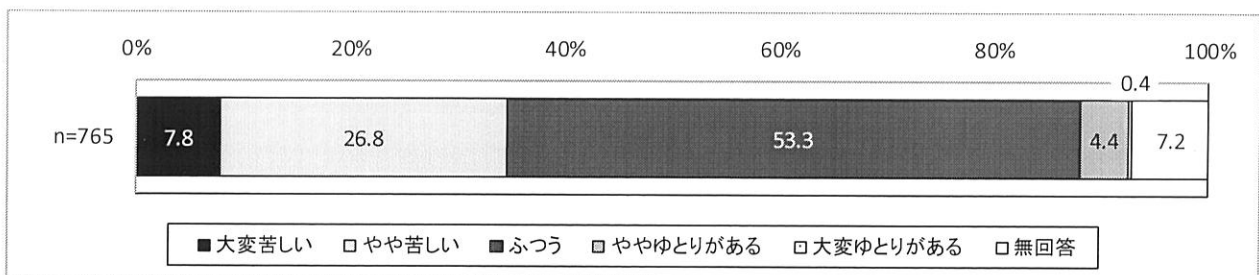
【年齢】



【家族構成】



【経済的状況】

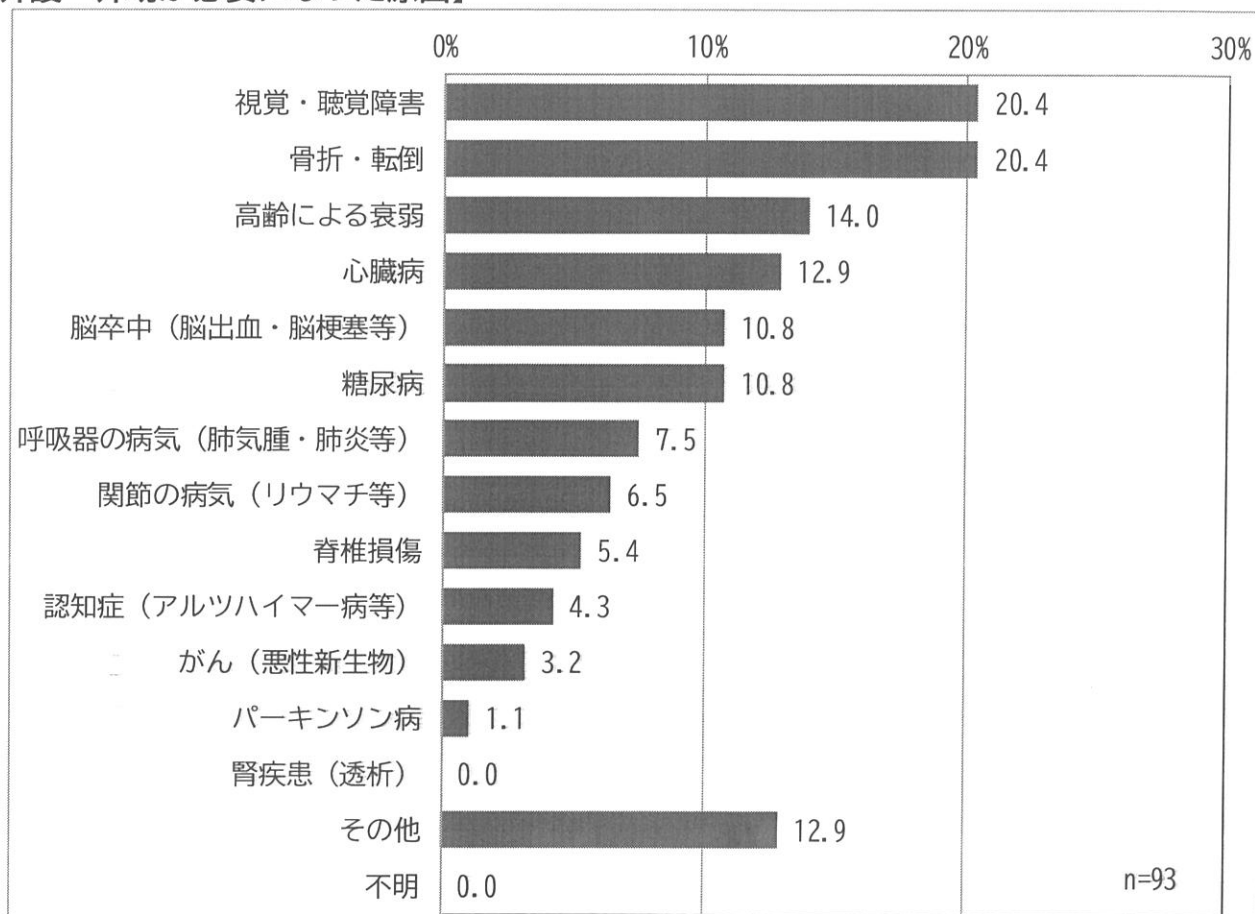


(2) 介護の状況

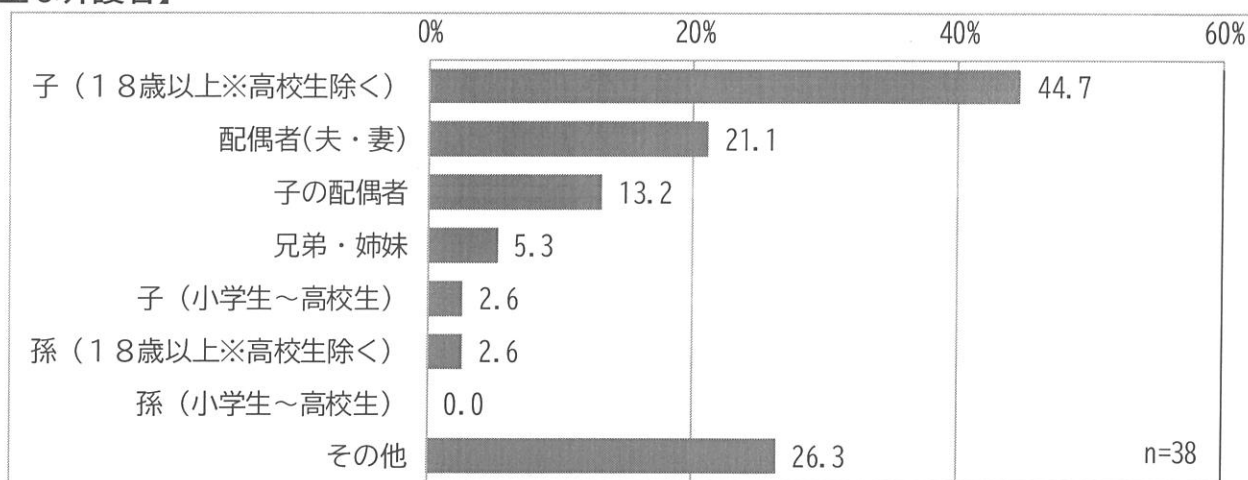
介護・介助が必要になった原因について「視覚・聴覚障害」「骨折・転倒」が20.4%と最も多く、次いで「高齢による衰弱」14.0%となっています。そのほか、心臓病や脳卒中、糖尿病など生活習慣病に起因する疾患により介護・介助が必要になっているケースも一定数みられます。要介護状態になる原因には、高齢による身体機能の低下だけでなく、生活習慣病に起因する疾病が多くみられます。若年からの生活習慣病の予防と悪化防止を図り、外出のきっかけであり身体機能・認知症予防等の効果が期待される通いの場等において、あわせて保健分野の取り組みを進めることが重要です。

主な介護者について、最も多いのは子（18歳以上）となっており、配偶者等の親族の割合が多くなっていることから家族介護者へのフォローも重要です。

【介護・介助が必要になった原因】



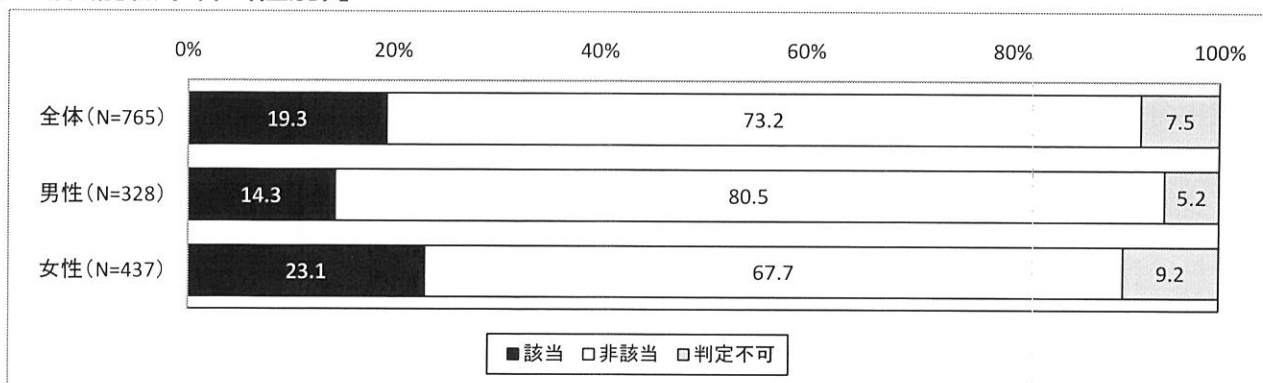
【主な介護者】



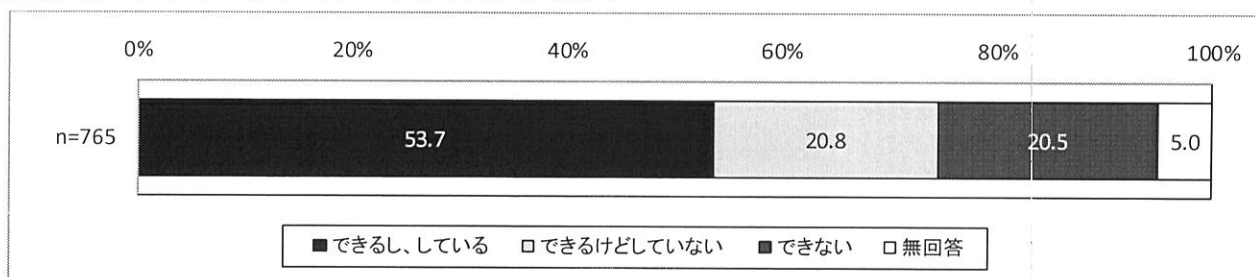
(3) 運動について

運動器機能の低下をみると、リスク該当者の割合は全体で 19.3%となっていますが、男性と比較して女性の方が 8.8 ポイント多くなっています。補助なしで階段を昇ることや椅子から立ち上がること、15 分程度歩くことについて、できるにもかかわらずしていない人が 1 割から 2 割近くみられ、日常生活におけるこうした取り組みを積極的に行うことによって、身体機能が維持され、介護予防につながることを意識付けが必要です。

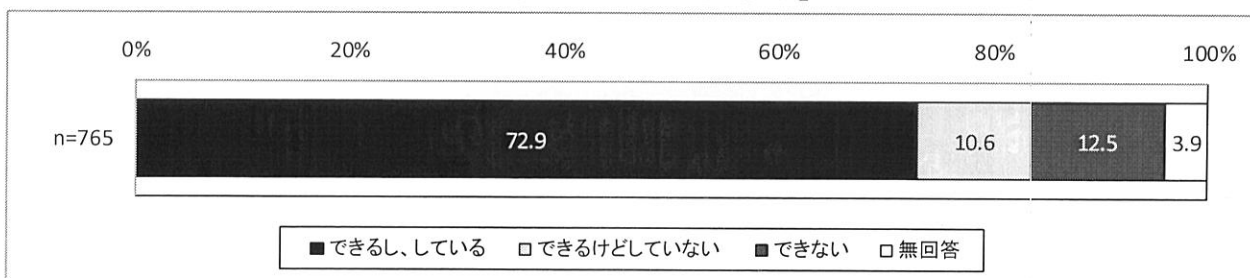
【運動機能低下者（性別）】



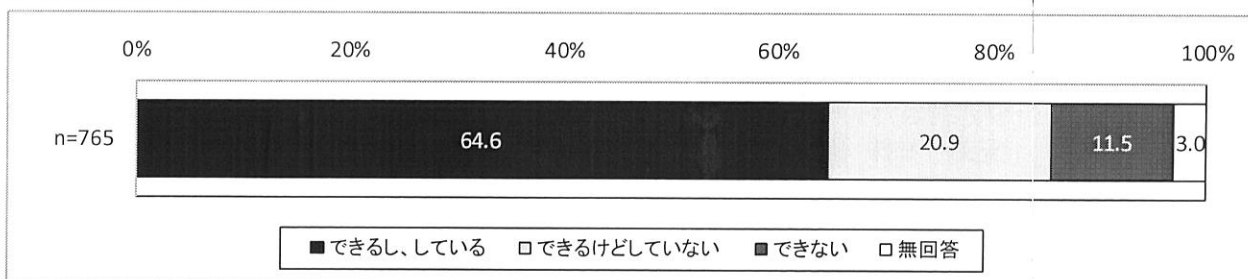
【階段を手すりや壁をつたわずに昇れるか】



【椅子に座った状態から何もつかまらずに立ち上がれるか】



【15 分位続けて歩けるか】

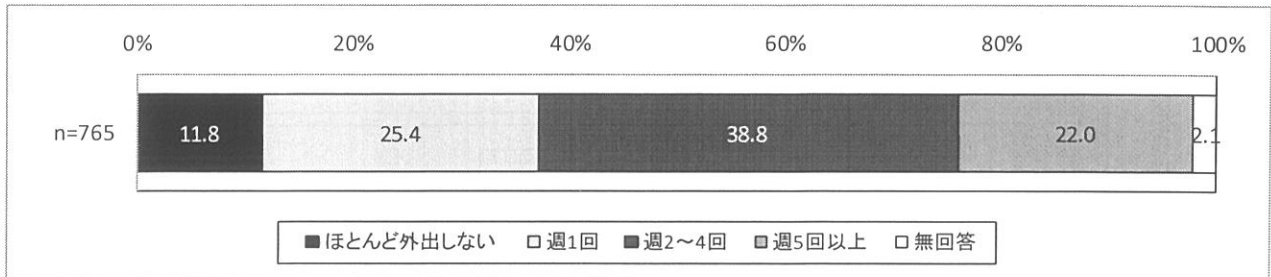


(4) 外出について

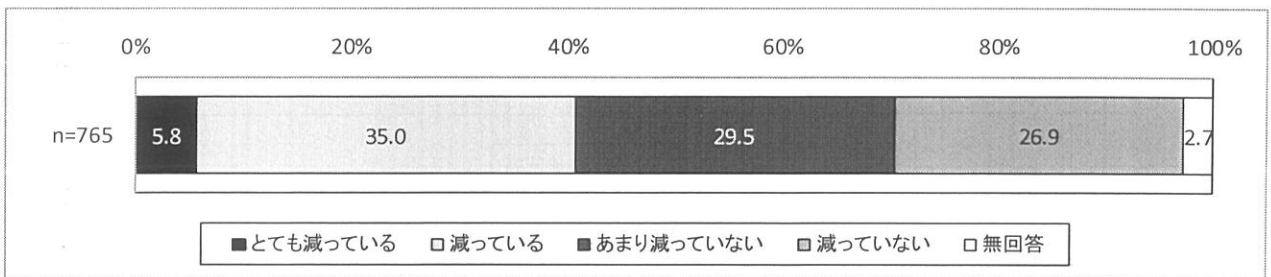
外出の状況については、週1回以上外出する人が9割近くとなっており、ほとんどの人が週に1回以上外出していますが、昨年と比べて外出の回数が減った人が4割以上となっています。外出を控えている理由について、「足腰などの痛み」が全体で45.8%となっており、身体的な理由で外出が億劫になっている人が多く、原因となる関節疾患や運動機能低下への対応が必要です。

また、外出を控えている理由として「交通手段がない」が一定数みられることから、足腰などの痛みにより外出が億劫になることに加え、交通手段がないため閉じこもり傾向になっている可能性があることから、転倒や足腰の痛み等に配慮した安全な移動手段の確保が求められます。(外出を控えている状況に関しては、コロナウイルスによる生活様式の変化などを留意する必要があります。)

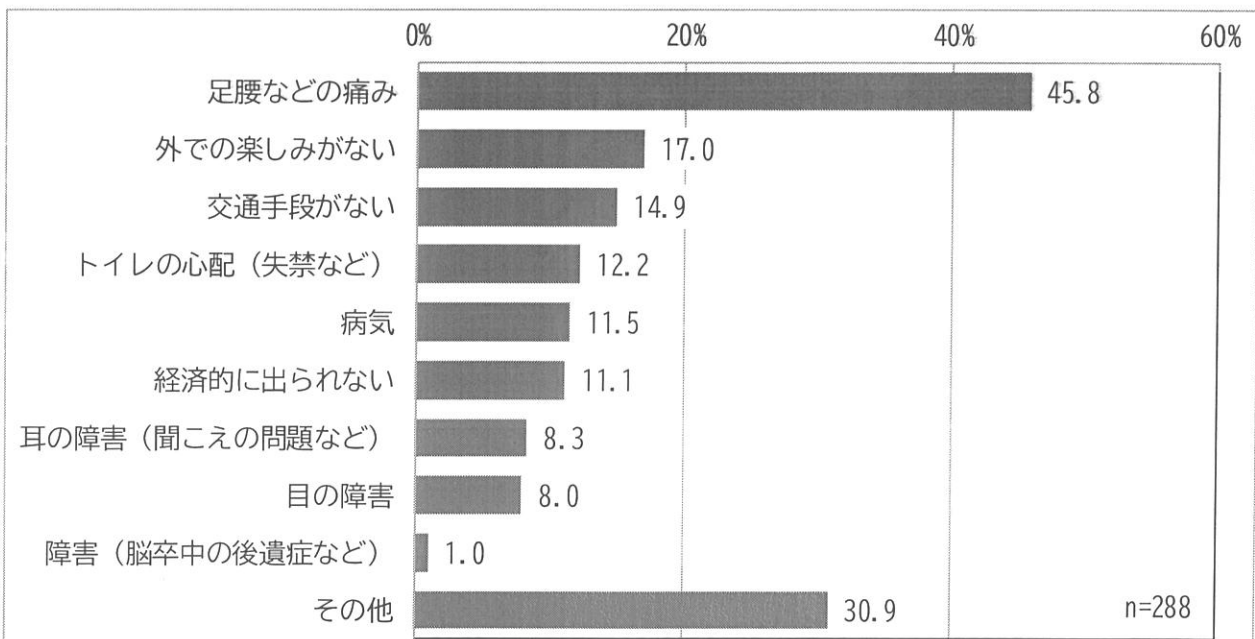
【外出の状況】



【昨年と比べて外出の回数】



【外出を控えている理由】

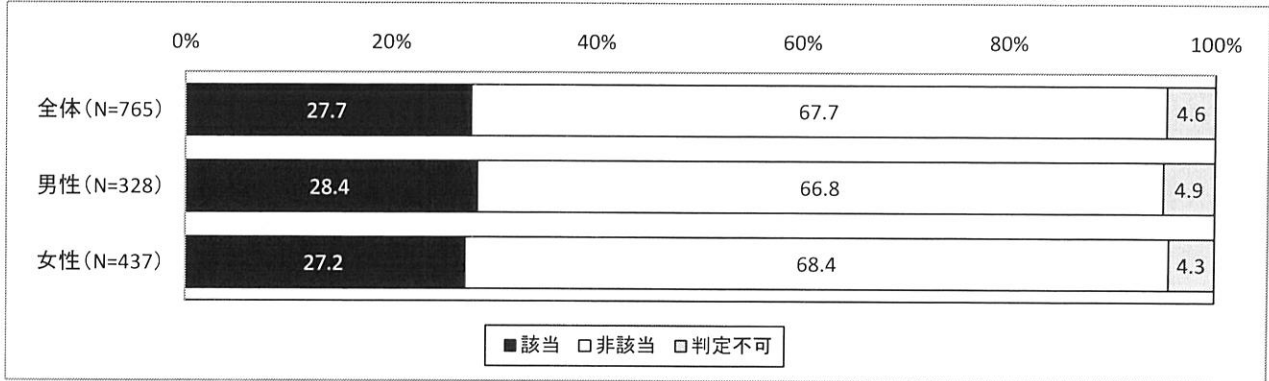


(5) 口腔・栄養について

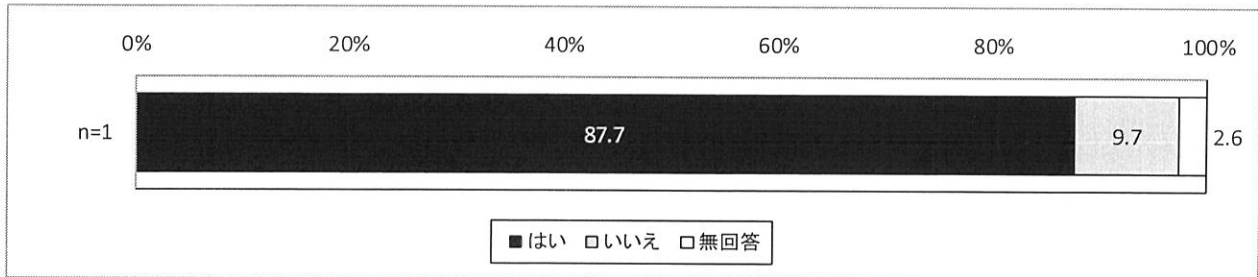
咀嚼機能、嚥下機能等の口腔機能低下のリスクに該当している人は 27.7%となっています。また、歯磨きの状況を見ると、毎日行えていない人は 9.7%となっています。

口内を清潔に保つことで、口腔機能の維持・栄養状態の改善のほか、肺炎や認知症の予防にもつながるとされていることから、口腔清掃方法の周知と習慣付けを行うことが必要です。

【口腔機能低下者（性別）】



【歯磨きを毎日しているか（人にやってもらう場合も含む）】



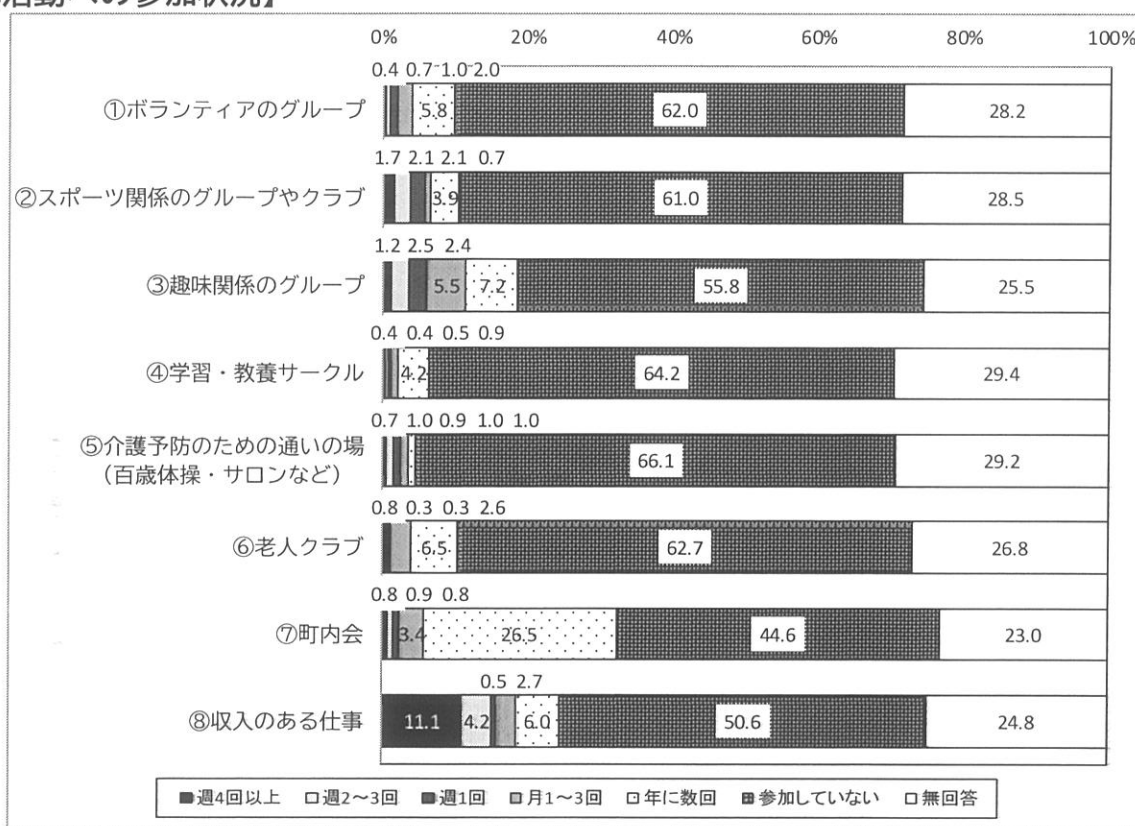
(6) 社会参加について

地域活動について、町内会、趣味関係のグループに参加している人が比較的多くなっています。介護予防のための通いの場については、参加している人が1割以下となっています。

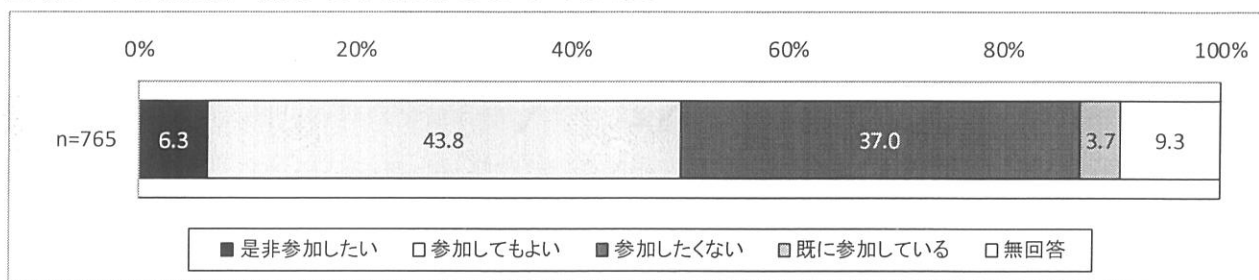
地域づくり活動について、参加者として参加可能である人は50.1%、お世話役として参加可能である人は32.3%となっています。

町内会・自治会、老人クラブや趣味・スポーツ関係のグループ、収入のある仕事などへの参加を通じて地域の人との関わりの場を持ち、これを地域づくり活動に展開していくよう取り組む必要があります。また、地域づくり活動の担い手となる人材育成を支援し、住民主体の地域づくり活動に繋げていく必要があります。

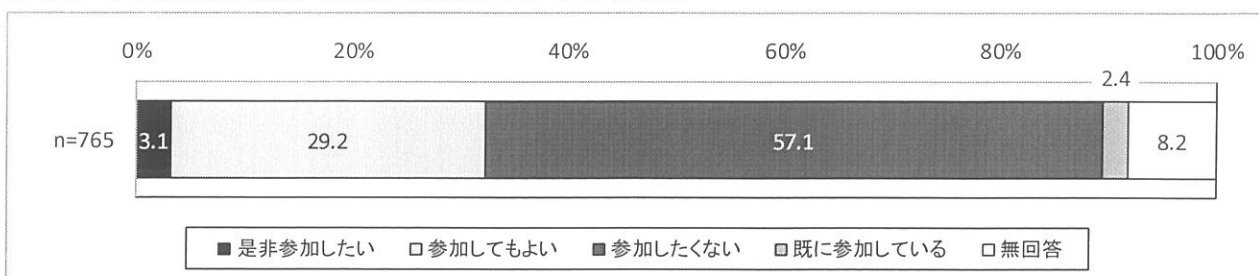
【地域活動への参加状況】



【地域づくり活動に関する参加者としての参加】



【地域づくり活動に関するお世話役としての参加】

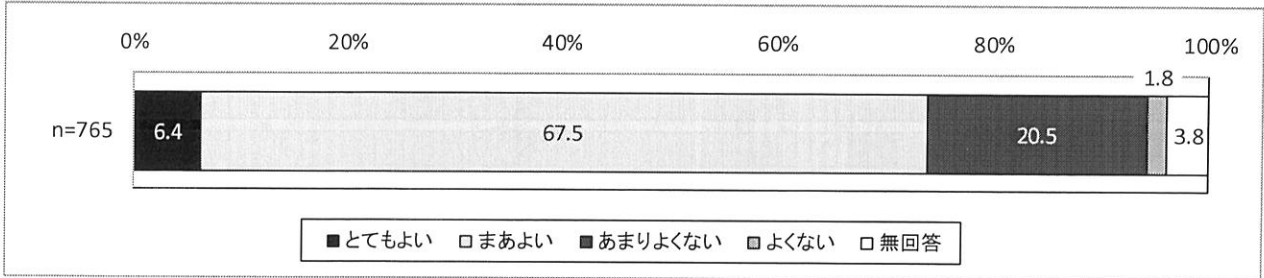


(7) 健康について

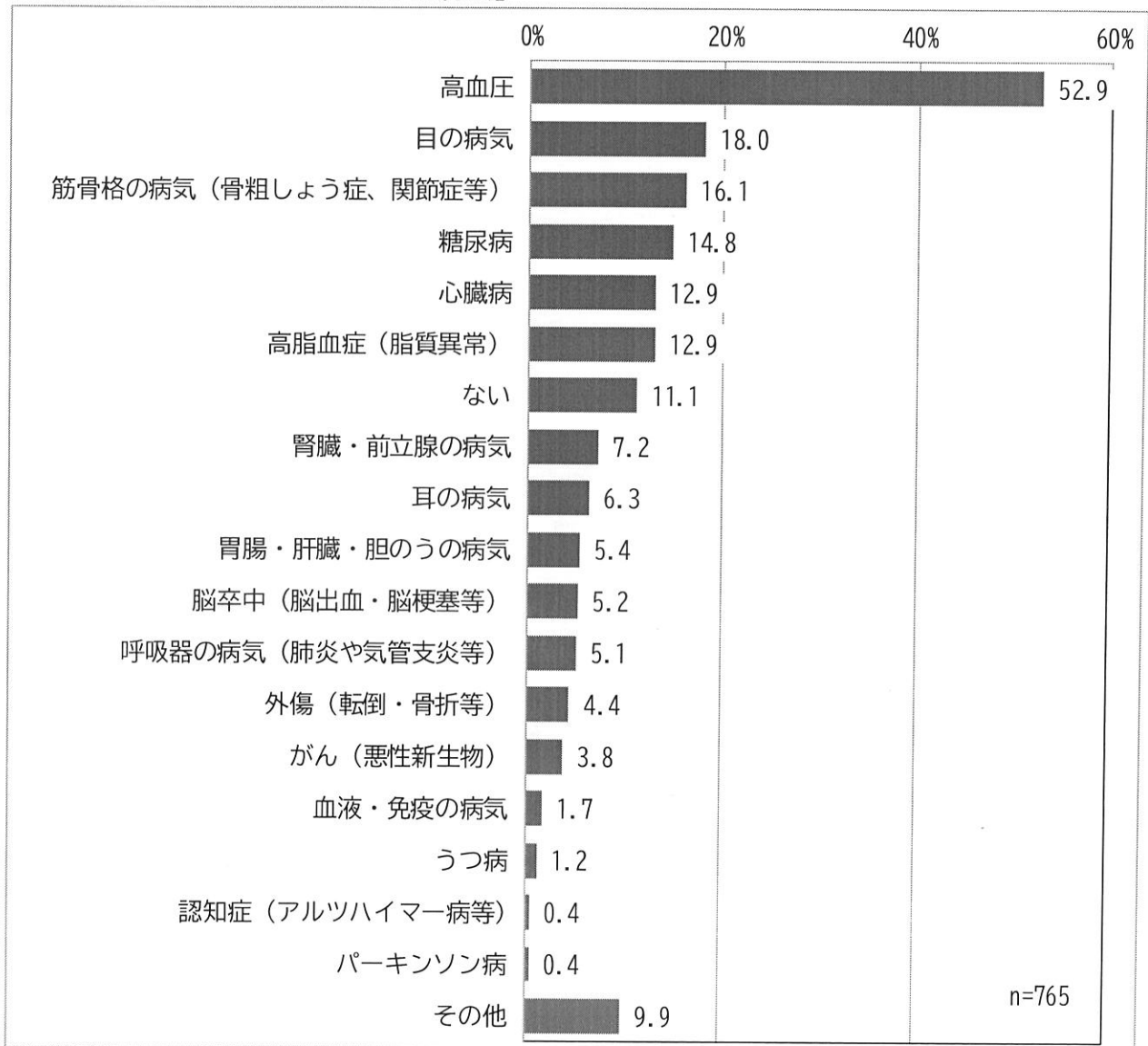
自身の健康状態をよいと感じている人は7割以上となっています。

既往歴に関しては、高血圧、糖尿病、心臓病、高脂血症等の生活習慣病に起因する疾病が多くみられるため、健診などによる生活習慣病対策が重要でであると考えられます。

【現在の健康状態】



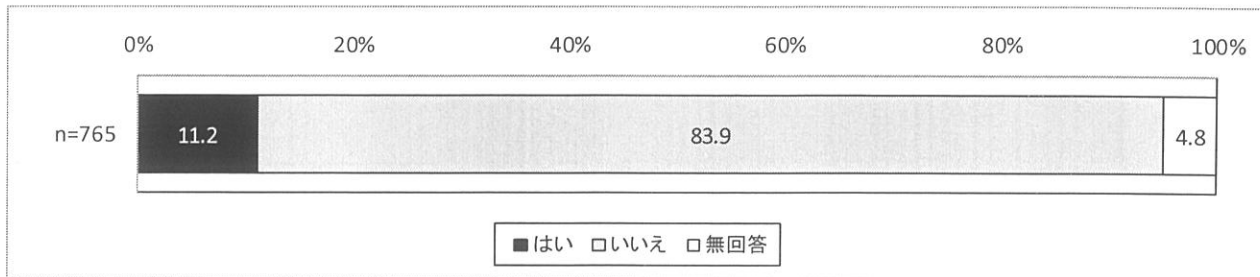
【現在治療中、または後遺症のある病気】



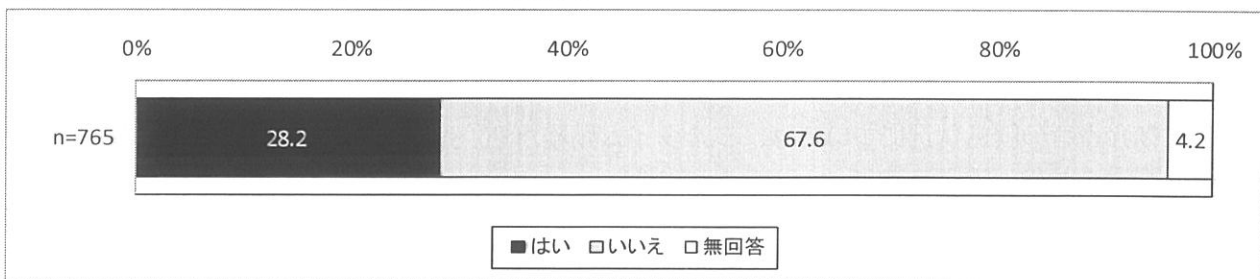
(8) 認知症について

認知症について、自身や家族に症状がある人は1割程度となっています。また、認知症に関する相談窓口を知っている人は3割弱となっています。認知症になっても住み慣れた地域で自分らしく暮らし続けられる「共生」をめざし、認知症バリアフリーの地域づくりを進めるにあたり、認知症の症状の有無にかかわらず、まずは地域で認知症の相談窓口が周知されることが重要であると考えられます。

【認知症の症状がある又は家族に認知症の症状がある人があるか】



【認知症に関する相談窓口を知っているか】

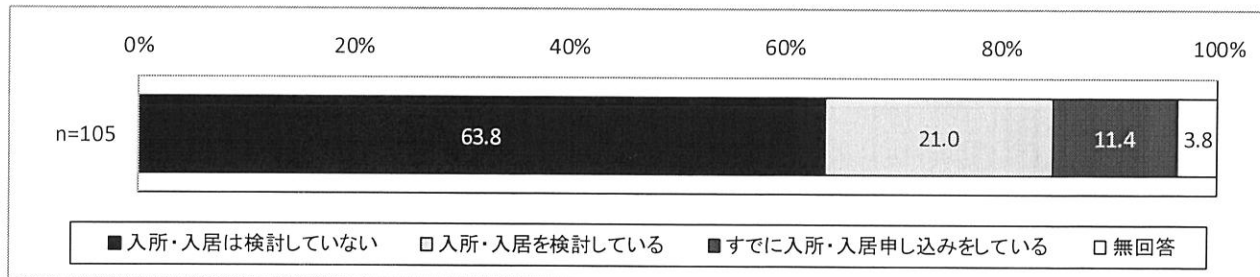


2 在宅介護実態調査

(1) 在宅生活の継続を考えている人

施設等への入所・入居の検討状況について、6割以上の方が「検討していない」と回答していることから、在宅生活の継続を考えている人が多くなっています。

【施設等への入所・入居の検討状況】

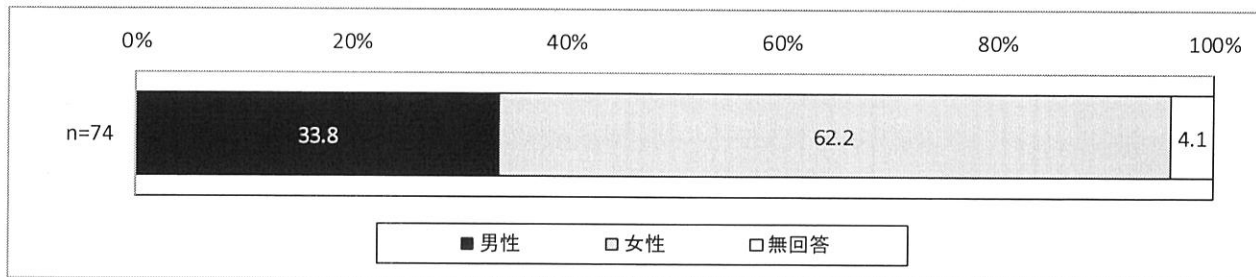


(2) 主な介護者の状況

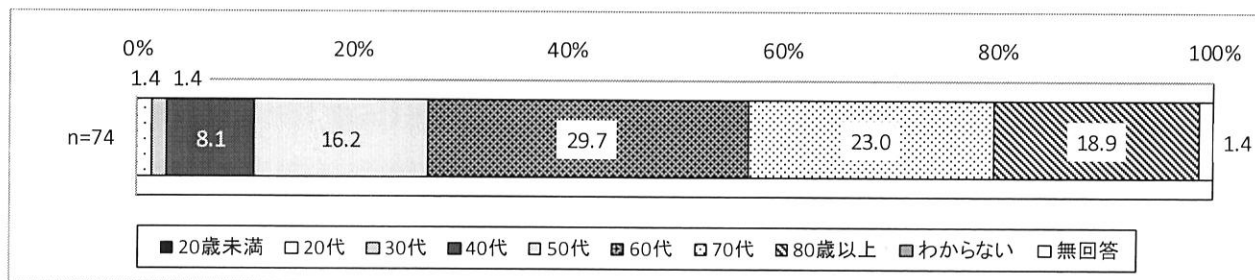
主な介護者に関しては、女性が6割以上を占め、60代が29.7%と最も多く、70歳以上も41.9%と多くなっています。

また、主な介護者の就労状況については、フルタイム勤務が20.3%、パートタイム勤務が14.9%と働いている人は4割近くとなっています。

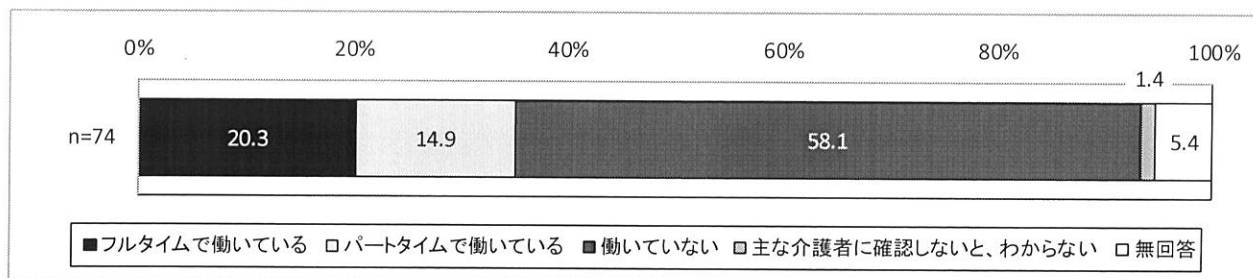
【主な介護者の性別】



【主な介護者の年齢】



【主な介護者の就労状況】

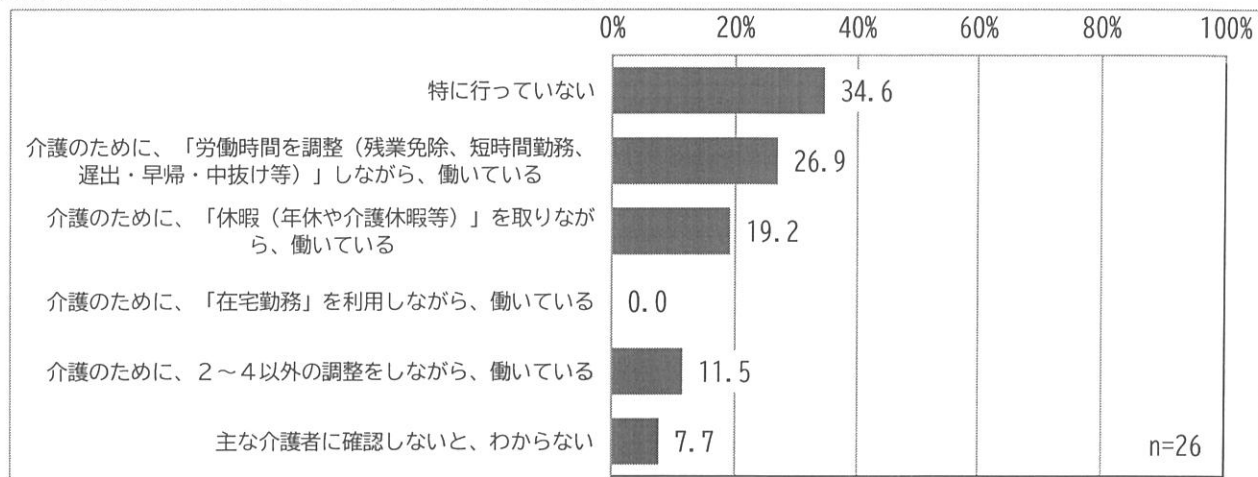


(3) 今後の就労継続見込

現在介護のためにやっている働き方の調整について、「労働時間の調整」など何らかの調整を行っている人がある程度みられます。

職場での労働時間の調整・柔軟な選択や介護休業・介護休暇等の制度の充実、またそれらの制度等を気兼ねなく行うことのできる職場づくりにより、在宅生活継続の可能性が高めていく必要があります。

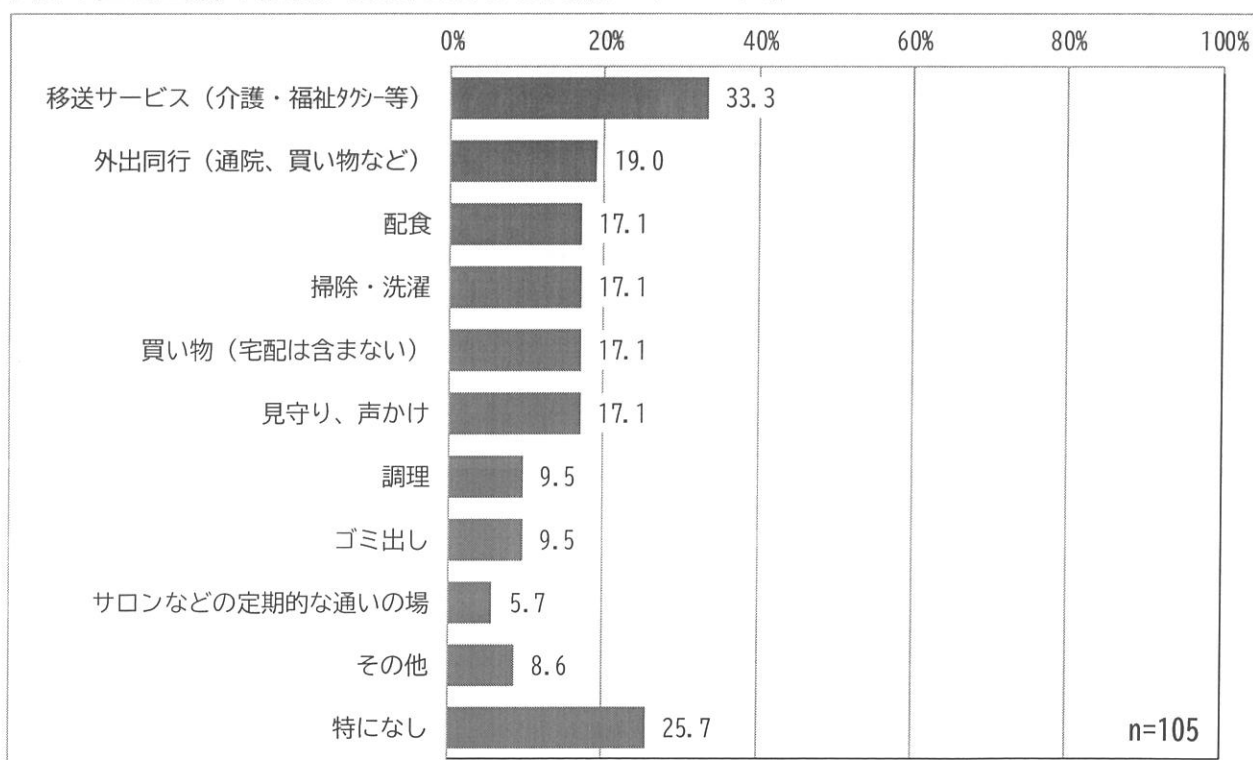
【現在介護のためにやっている働き方の調整】



(4) 在宅生活の継続に必要な支援・サービス

在宅生活の継続に必要な支援・サービスについて、「移送サービス」、「外出同行（通院、買い物など）」などのニーズが高くなっており、このような外出に係る支援・サービスは、「買い物」や「サロンへの参加」など、他の支援・サービスとの関係も深いことから、「外出に係る支援・サービスの充実」は大きな課題であるといえます。また、「見守り・声かけ」のニーズも高くなっており、孤独死などが社会問題となっている中、独居高齢者が安心して生活できるよう、地域で見守りや声かけを行うことができる仕組みづくりが必要です。

【今後の在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス】



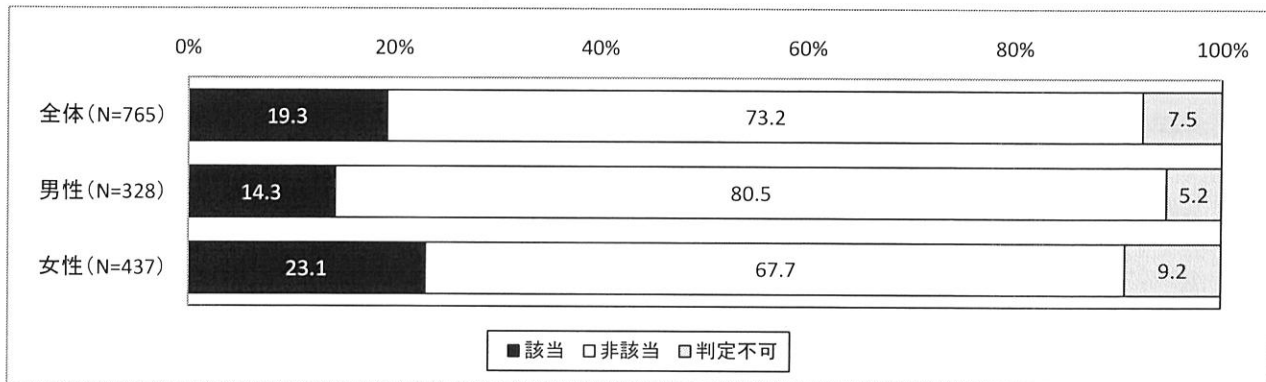
第3章 判定結果

1 項目別評価

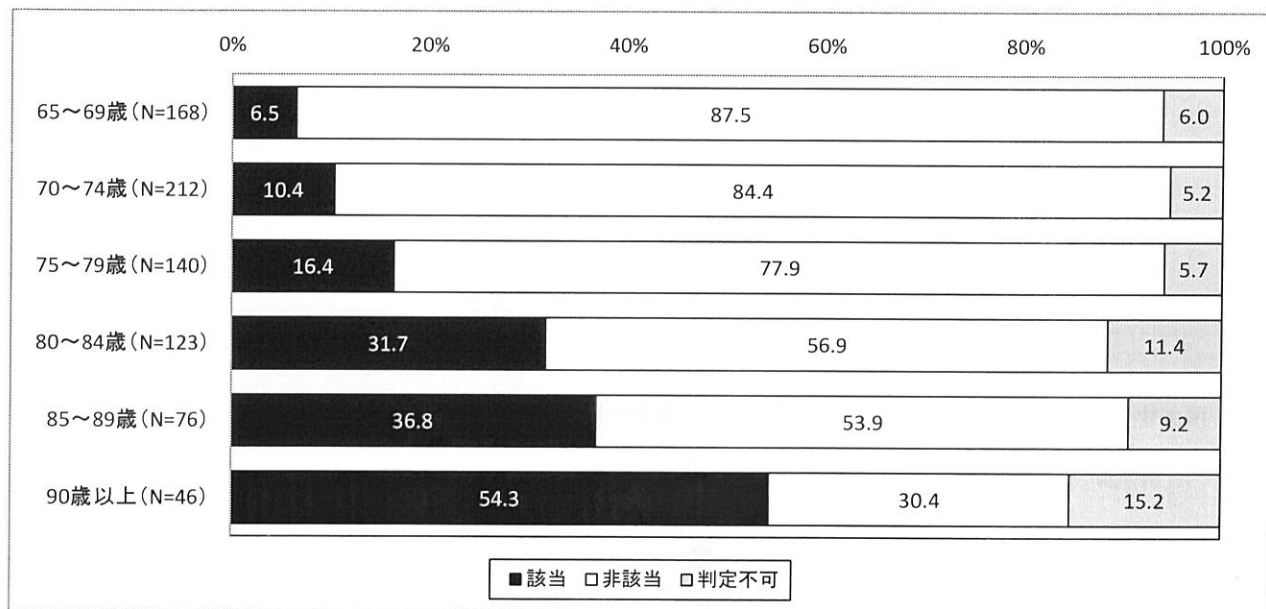
(1) 機能

① 運動器

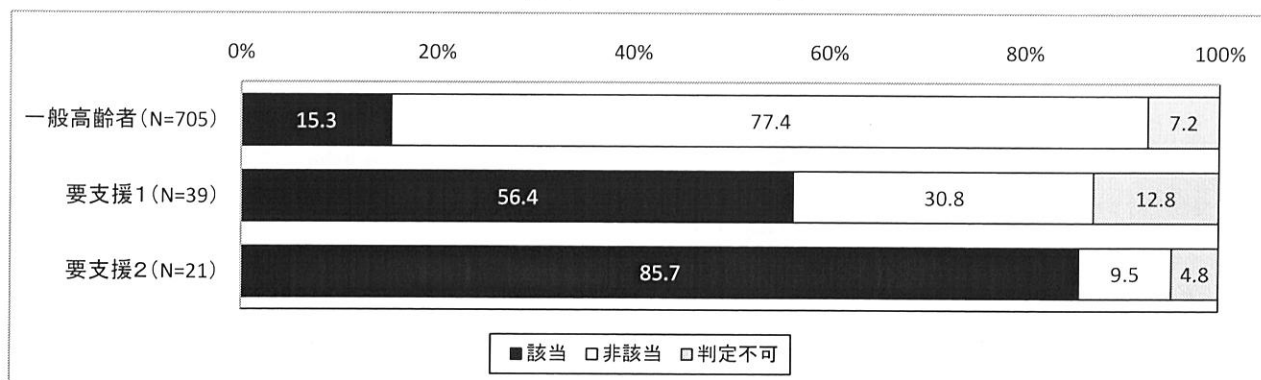
運動器機能の低下に該当している人の割合は、男性で14.3%、女性で23.1%となっており、男性よりも女性の方が該当者割合が高くなっています。



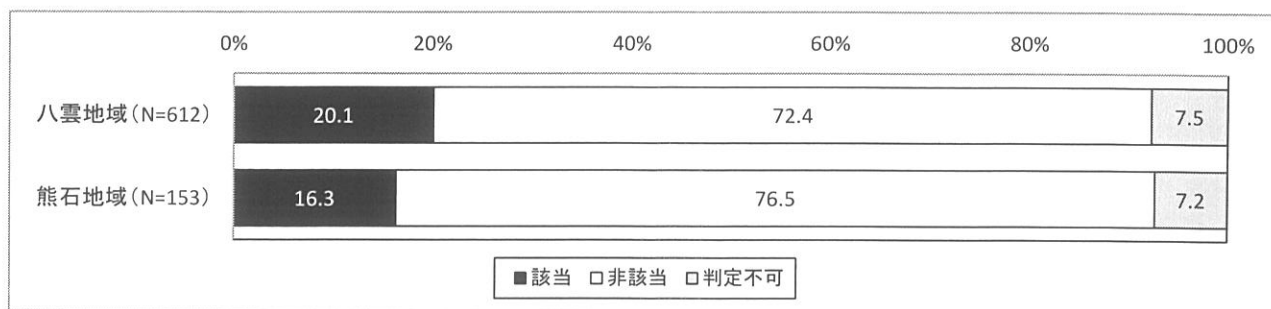
年齢別の運動器機能では、高齢になるほど該当者割合が高く、90歳以上では半数以上となっています。



認定該当状況による運動器機能の低下に該当している人の割合は、一般高齢者で15.3%、要支援1で56.4%、要支援2で85.7%となっており、要支援2が最も高くなっています。



地域別による運動器機能の低下に該当している人の割合は、八雲地域 20.1%、熊石地域 16.3%となっており、八雲地域の方が該当者割合が高くなっています。

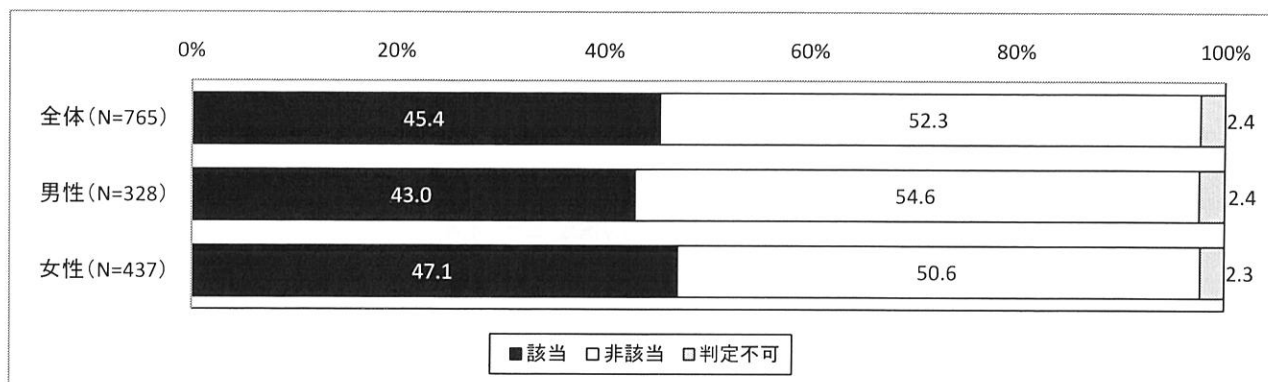


以下の設問のうち3問以上、該当する選択肢が回答された場合に、運動器機能が低下していると判定されます。

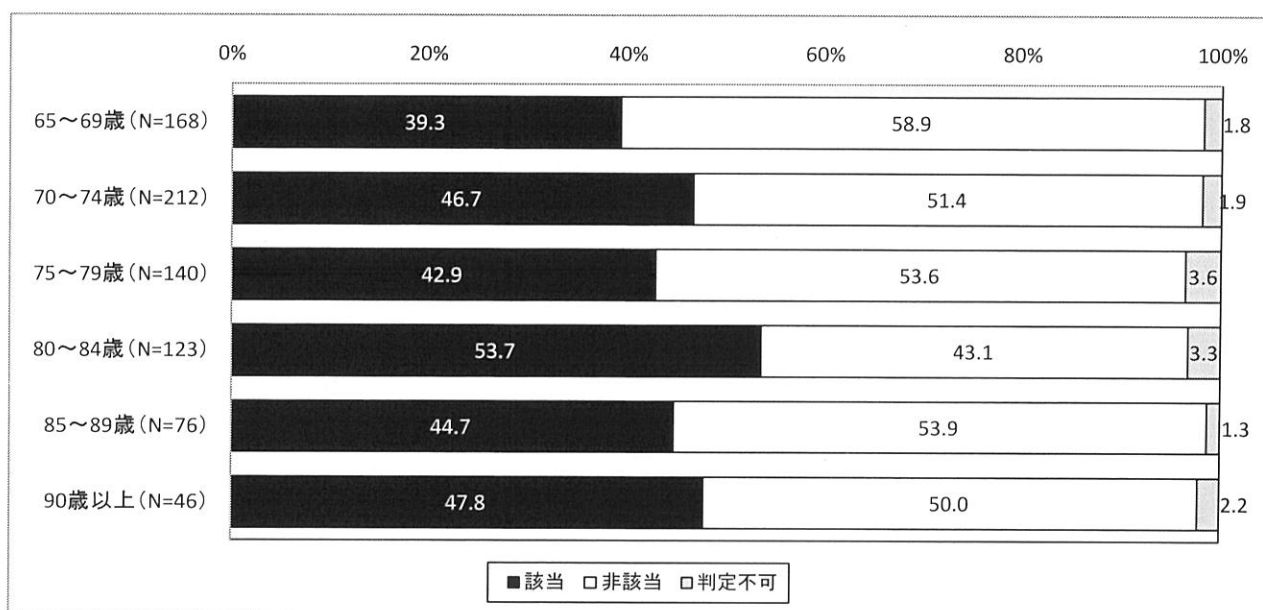
番号	設問内容	該当する選択肢
問 2(1)	階段を手すりや壁をつたわずに昇っていますか	3. できない
問 2(2)	椅子に座った状態から何もつかまらずに立ち上がっていますか	3. できない
問 2(3)	15分位続けて歩いていますか	3. できない
問 2(4)	過去1年間に転んだ経験がありますか	1. 何度もある 2. 1度ある
問 2(5)	転倒に対する不安は大きいですか	1. とても不安である 2. やや不安である

② 転倒

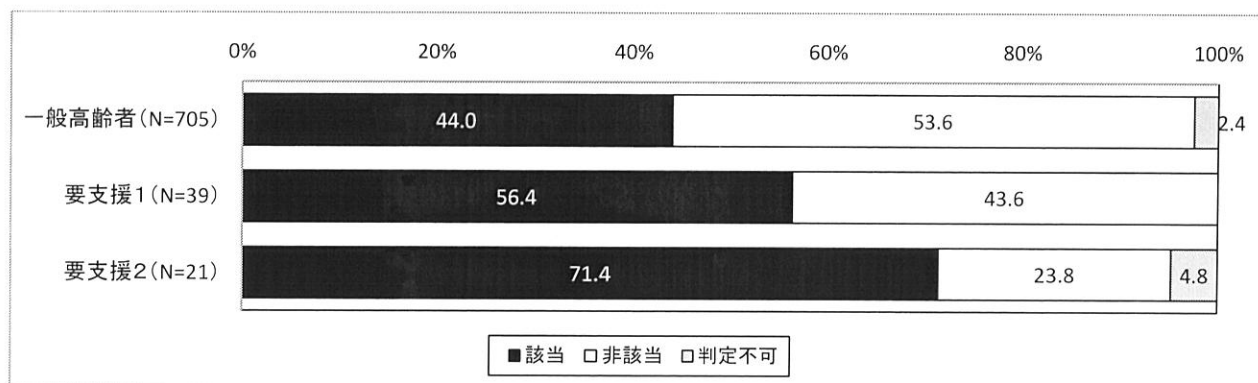
転倒リスクありに該当している人の割合は、男性 43.0%、女性 47.1%となっており、男性よりも女性の方が該当者割合が高くなっています。



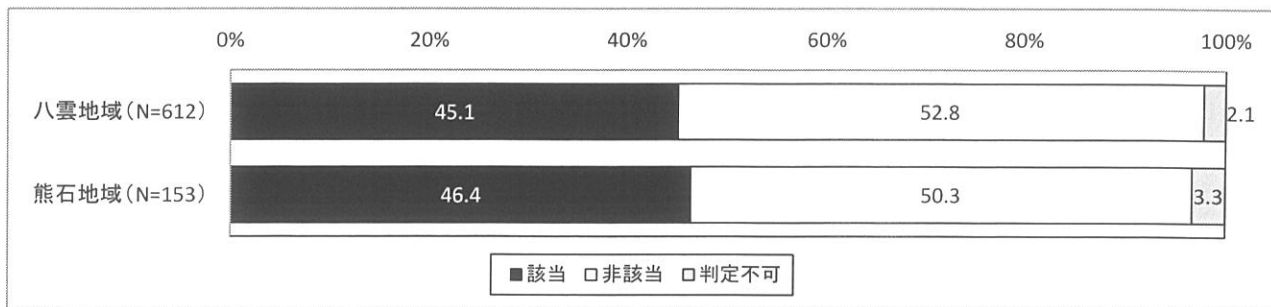
年齢別の転倒リスクをみると、年齢ごとにばらつきがあり 80～84 歳が 53.7%と最も高くなっています。



認定該当状況による転倒リスクに該当している人の割合は、一般高齢者で 44.0%、要支援1で 56.4%、要支援2で 71.4%となっており、要支援2が最も高くなっています。



地域別による転倒リスクに該当している人の割合は、八雲地域 45.1%、熊石地域 46.4%となっており、熊石地域の方が該当者割合が若干高くなっています。

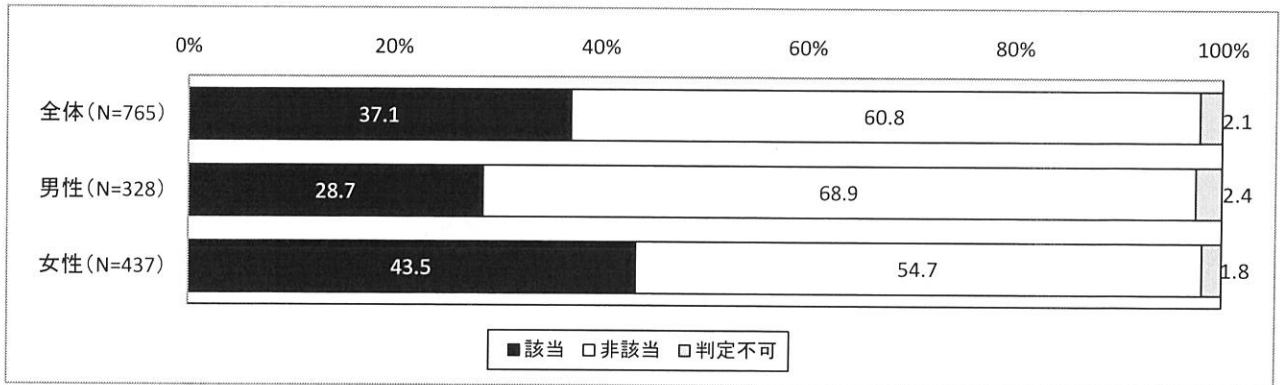


以下の設問で、該当する選択肢が回答された場合に、転倒リスクがあると判定されます。

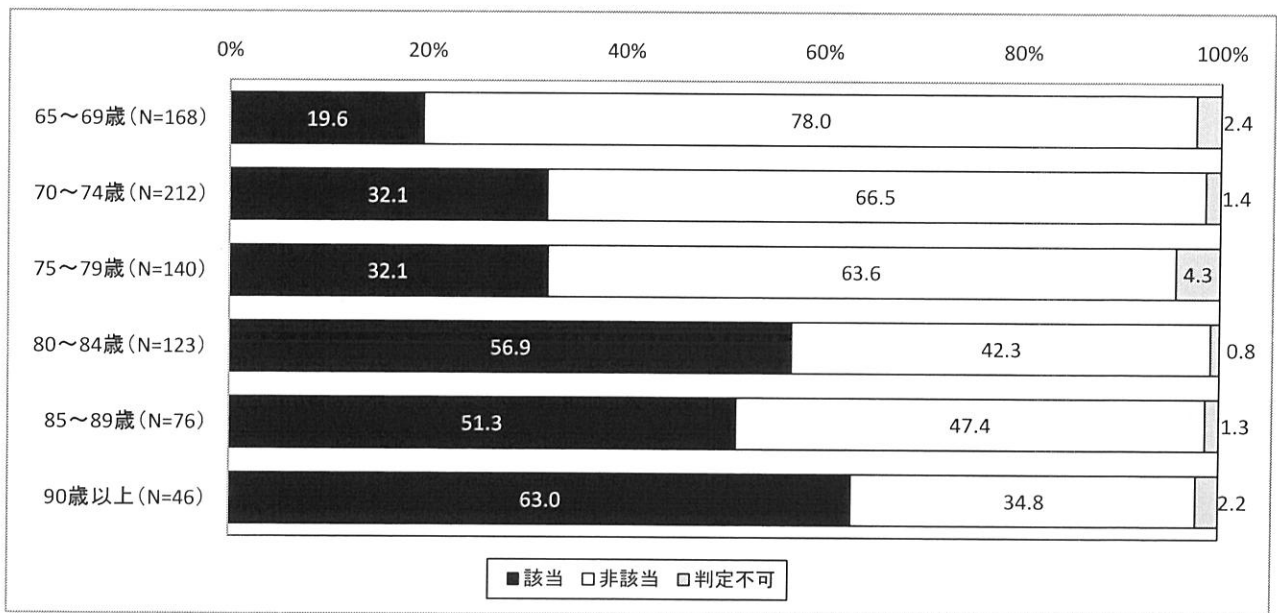
番号	設問内容	該当する選択肢
問 2(4)	過去1年間に転んだ経験がありますか	1. 何度もある 2. 1度ある

③ 閉じこもり

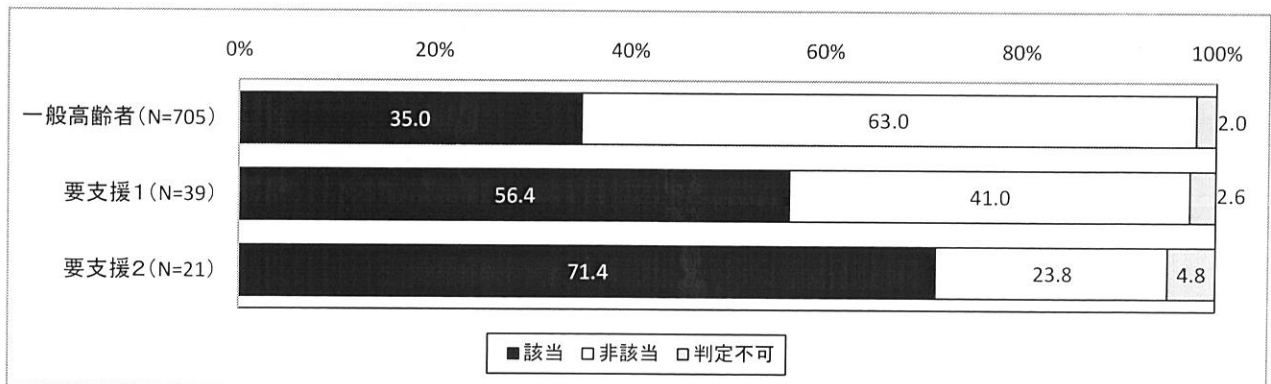
閉じこもり傾向ありに該当している人の割合は、男性 28.7%、女性 43.5%となっており、男性よりも女性の方が該当者割合が高くなっています。



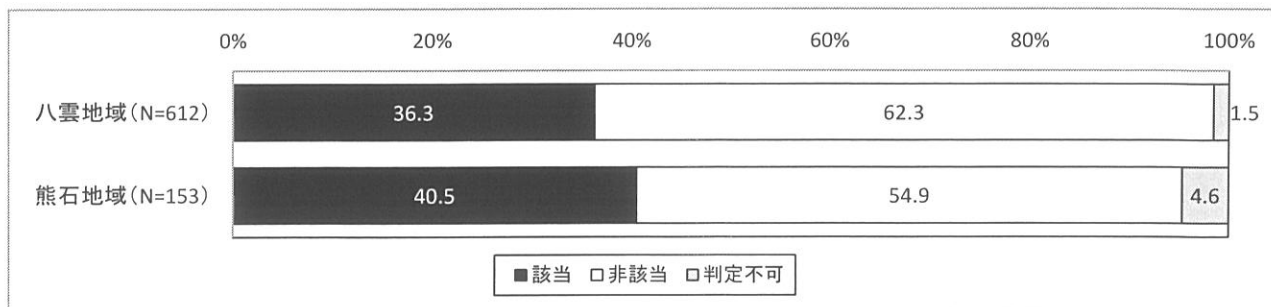
年齢別の閉じこもり傾向をみると、高齢になるほど該当者割合が高くなる傾向にあり、90歳以上で6割以上となっています。



認定該当状況による閉じこもり傾向ありに該当している人の割合は、一般高齢者で 35.0%、要支援1で 56.4%、要支援2で 71.4%となっており、要支援2が最も高くなっています。



地域別による閉じこもり傾向ありに該当している人の割合は、八雲地域 36.3%、熊石地域 40.5%となっており、熊石地域の方が該当者割合が高くなっています。

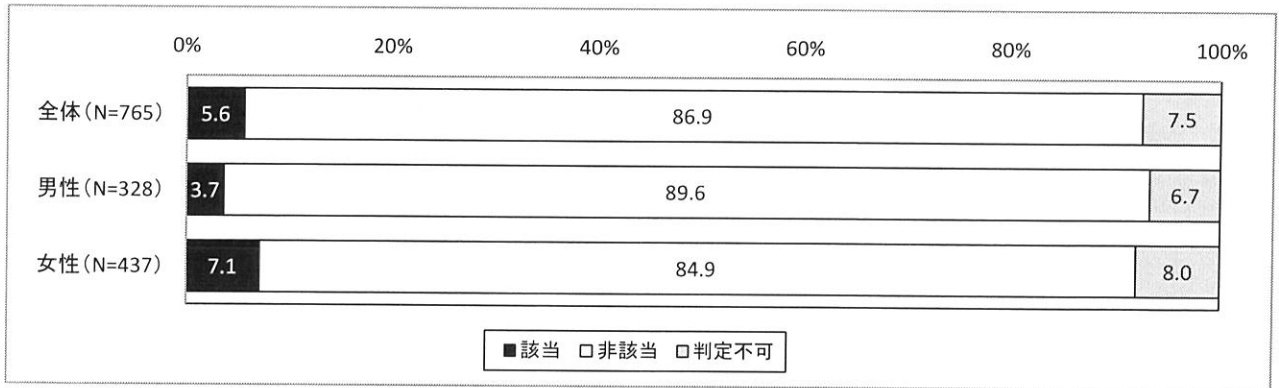


以下の設問で、該当する選択肢が回答された場合に、閉じこもり傾向にあると判定されます。

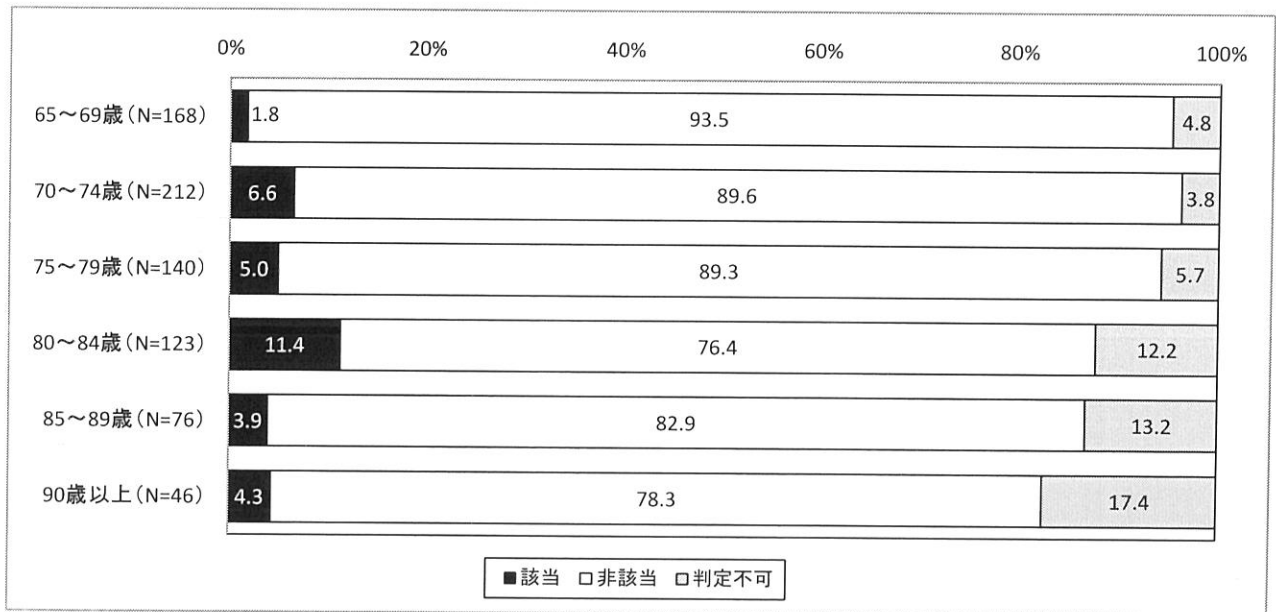
番号	設問内容	該当する選択肢
問 2(6)	週に1回以上は外出していますか	1. ほとんど外出しない 2. 週1回

④ 栄養改善

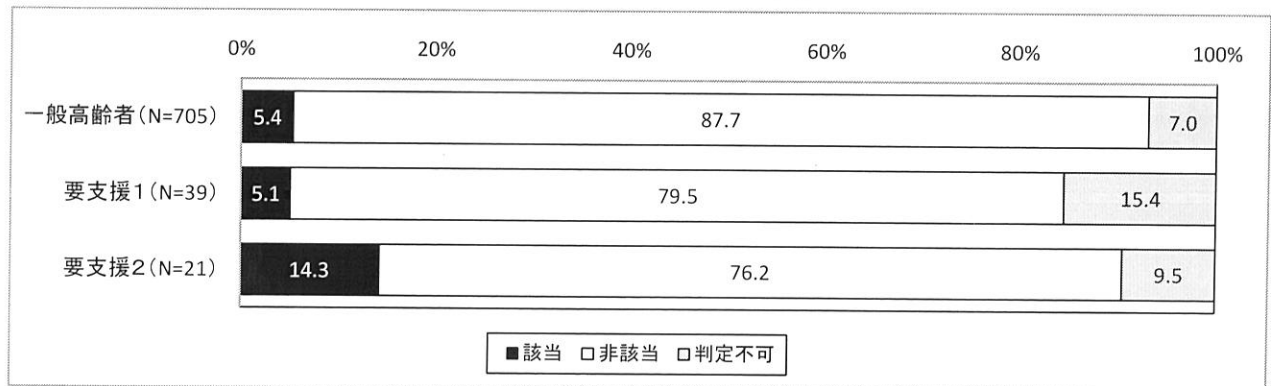
栄養改善リスクありに該当している人の割合は、男性 3.7%、女性 7.1%となっており、男性よりも女性の方が該当者割合が高くなっています。



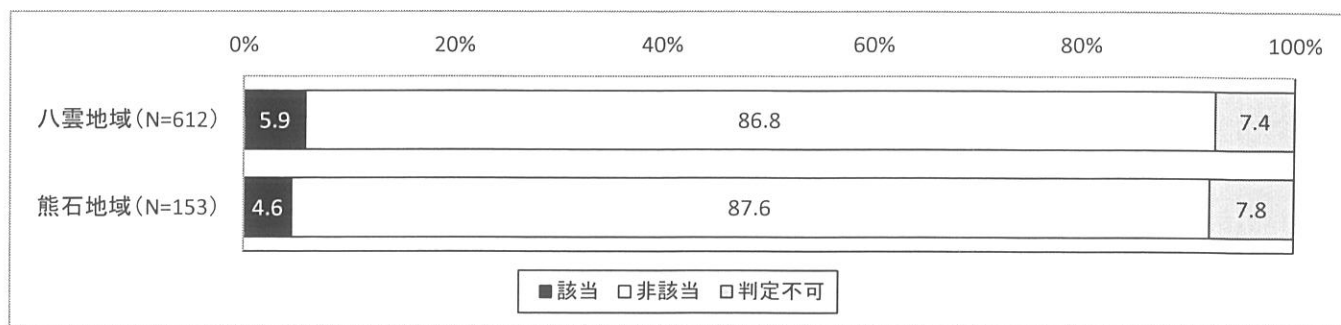
年齢別の栄養改善リスクをみると、年齢ごとにばらつきがあり 80～84 歳が 11.4%と最も高くなっています。



認定該当状況による栄養改善リスクありに該当している人の割合は、一般高齢者で 5.4%、要支援1で 5.1%、要支援2で 14.3%となっており、要支援2が最も高くなっています。



地域別による栄養改善リスクありに該当している人の割合は、八雲地域 5.9%、熊石地域 4.6%となっており、八雲地域の方が該当者割合が若干高くなっています。

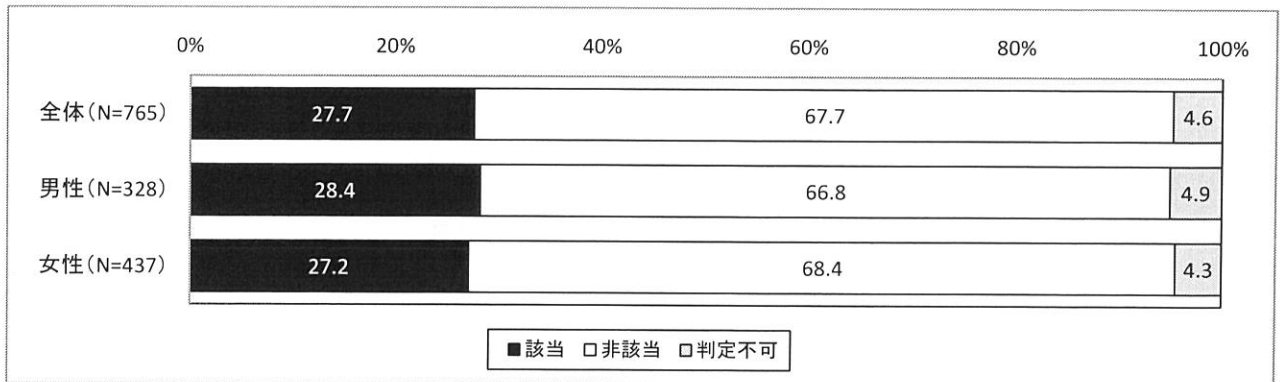


身長・体重から算出される BMI (体重 (kg) ÷ {身長 (m) × 身長 (m)}) が 18.5 以下の場合に栄養改善リスクがあると判定されます。

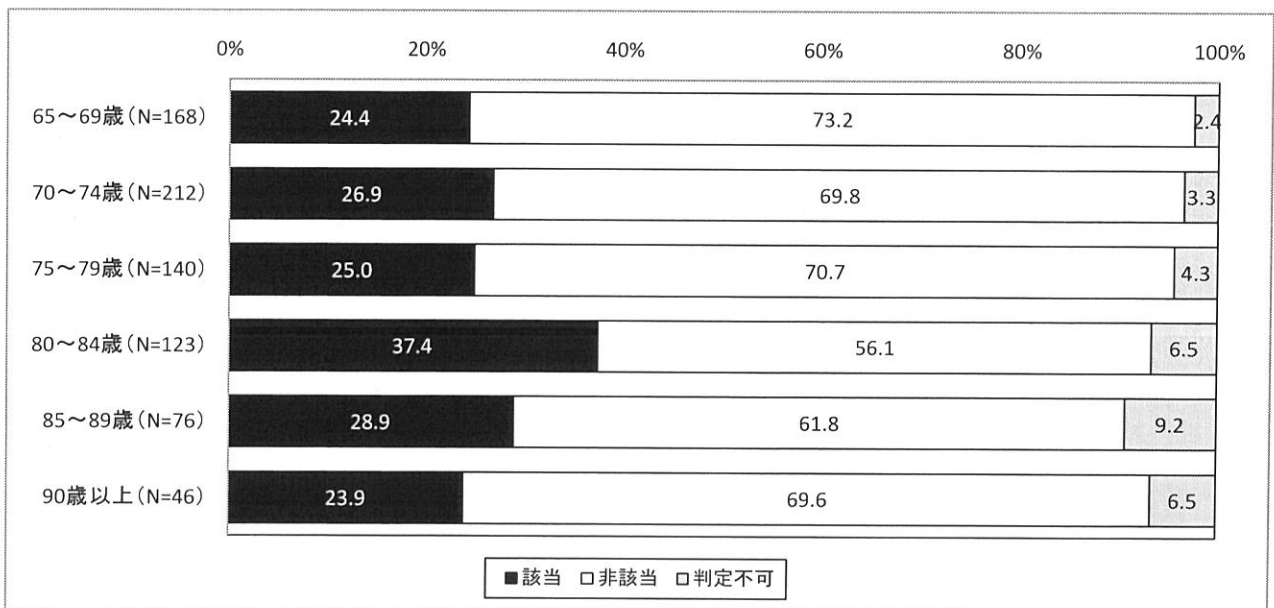
番号	設問内容	該当する選択肢
問 3(1)	身長、体重 (肥満度: BMI = 体重 / (身長 × 身長))	18.5 未満

⑤ 口腔

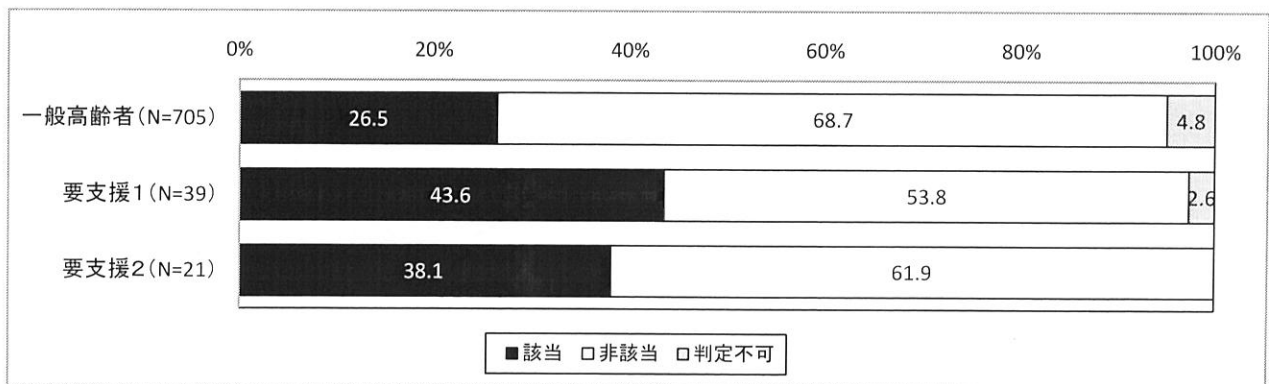
口腔機能の低下に該当している人の割合は、男性 28.4%、女性 27.2%となっており、性別による差は少なくなっています。



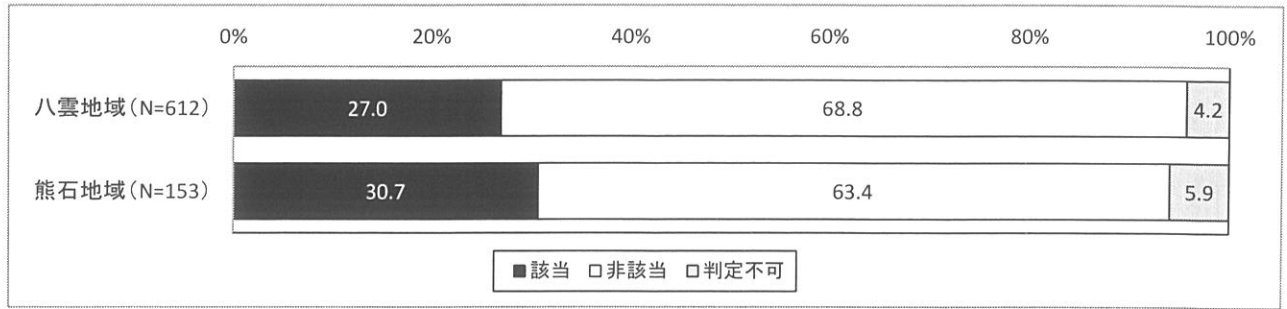
年齢別の口腔機能の低下をみると、年齢ごとにばらつきがあり 80～84 歳が 37.4%と最も高くなっています。



認定該当状況による口腔機能の低下に該当している人の割合は、一般高齢者で 26.5%、要支援1で 43.6%、要支援2で 38.1%となっており、要支援1が最も高くなっています。



地域別による口腔機能の低下に該当している人の割合は、八雲地域 27.0%、熊石地域 30.7%となっており、熊石地域の方が該当者割合が高くなっています。

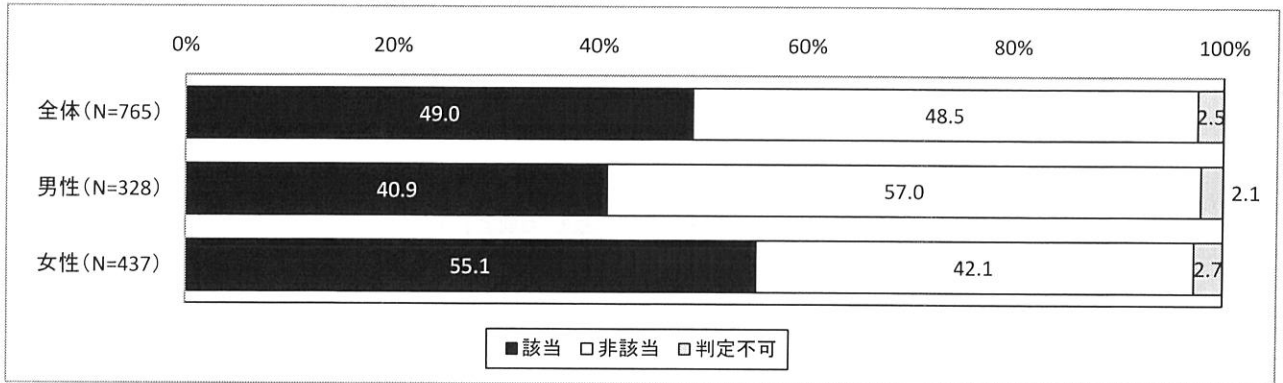


以下の設問のうち2問以上、該当する選択肢が回答された場合に、口腔機能が低下していると判定されます。

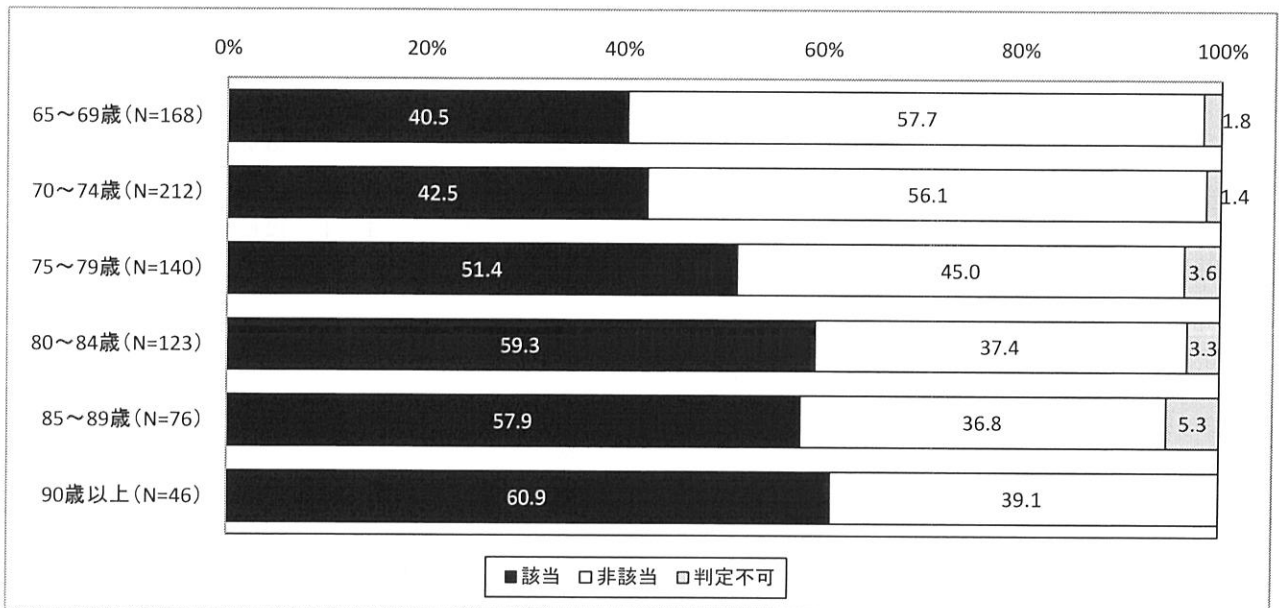
番号	設問内容	該当する選択肢
問 3(2)	半年前に比べて固いものが食べにくくなりましたか	1. はい
問 3(3)	お茶や汁物等でむせることがありますか	1. はい
問 3(4)	口の渴きが気になりますか	1. はい

⑥ 認知機能

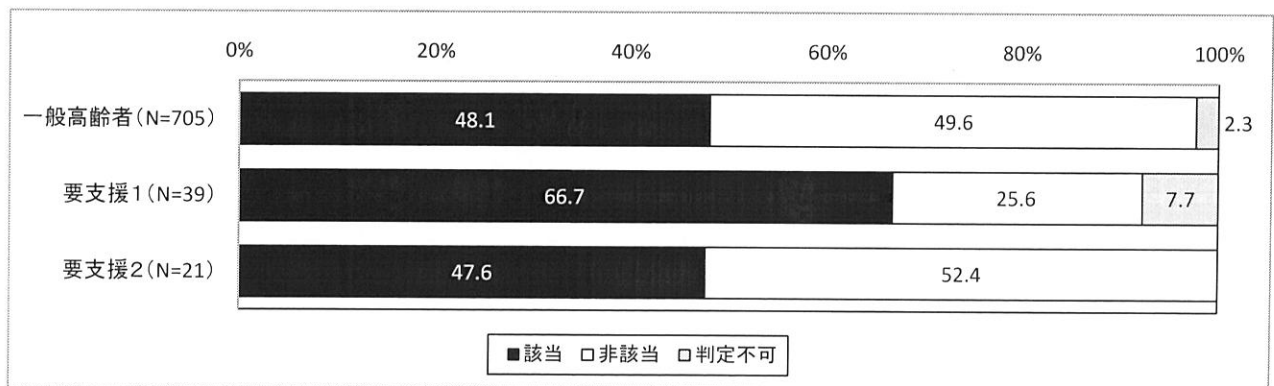
認知機能の低下に該当している人の割合は、男性 40.9%、女性 55.1%となっており、男性よりも女性の方が該当者割合が高くなっています。



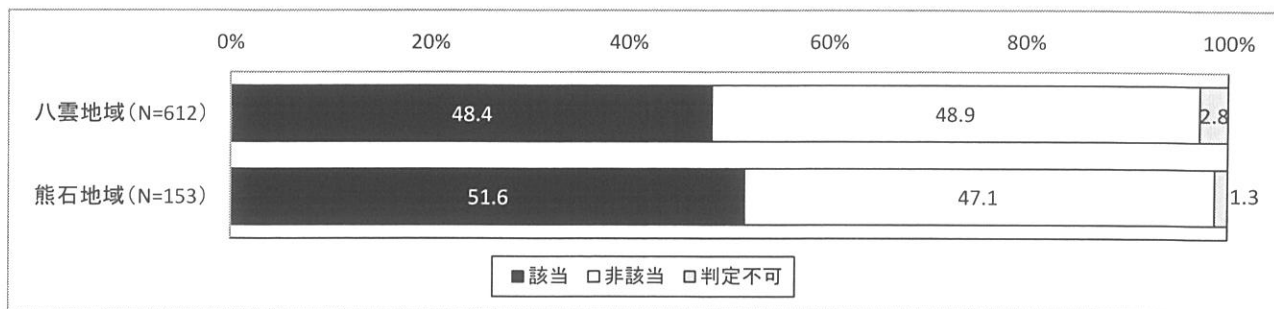
年齢別の認知機能の低下をみると、高齢になるほど該当者割合が高くなる傾向にあり、90歳以上で6割以上となっています。



認定該当状況による認知機能の低下に該当している人の割合は、一般高齢者で48.1%、要支援1で66.7%、要支援2で47.6%となっており、要支援1が最も高くなっています。



地域別による認知機能の低下に該当している人の割合は、八雲地域 48.4%、熊石地域 51.6%となっており、熊石地域の方が該当者割合が高くなっています。

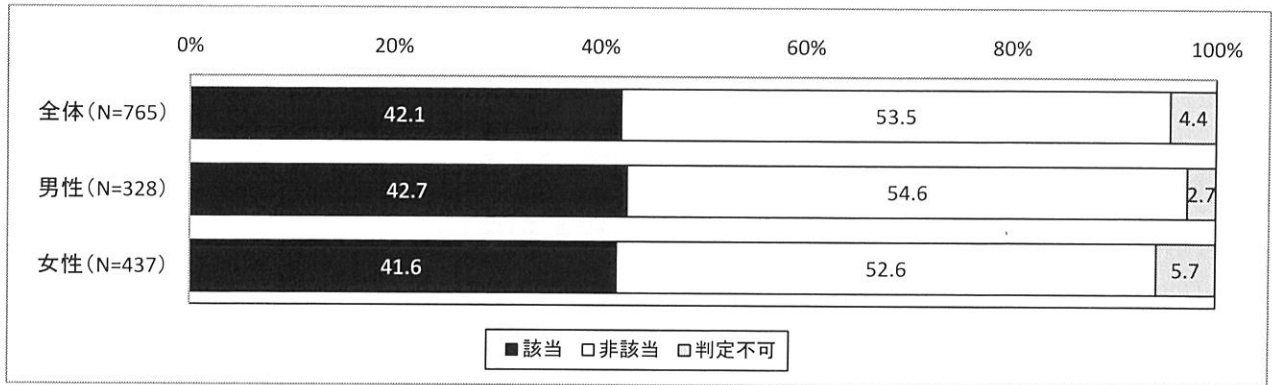


以下の設問で、該当する選択肢が回答された場合に、認知機能が低下していると判定されます。

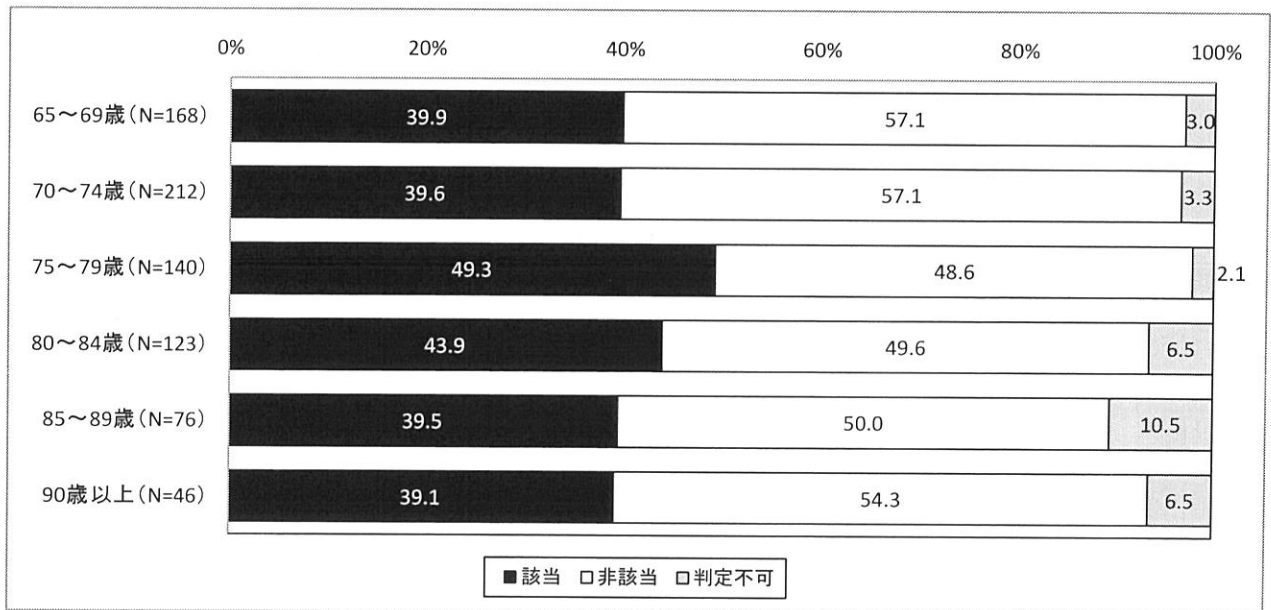
番号	設問内容	該当する選択肢
問 4(1)	物忘れが多いと感じますか	1. はい

⑦ うつ

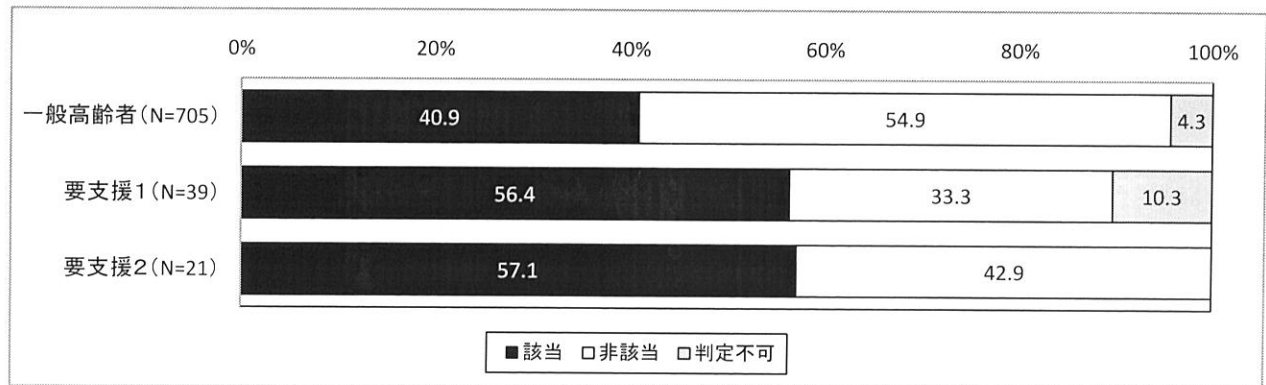
うつ傾向ありに該当している人の割合は、男性 42.7%、女性 41.6%となっており、性別による差は少なくなっています。



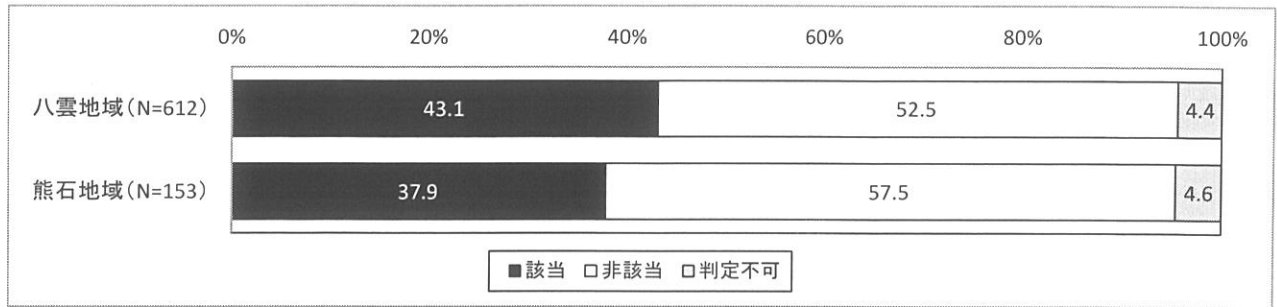
年齢別のうつ傾向をみると、年齢ごとにばらつきがあり 75～79 歳が 49.3%と最も高くなっています。



認定該当状況によるうつ傾向ありに該当している人の割合は、一般高齢者で 40.9%、要支援1で 56.4%、要支援2で 57.1%となっており、要支援2が最も高くなっています。



地域別によるうつ傾向ありに該当している人の割合は、八雲地域 43.1%、熊石地域 37.9%となっており、八雲地域の方が該当者割合が高くなっています。



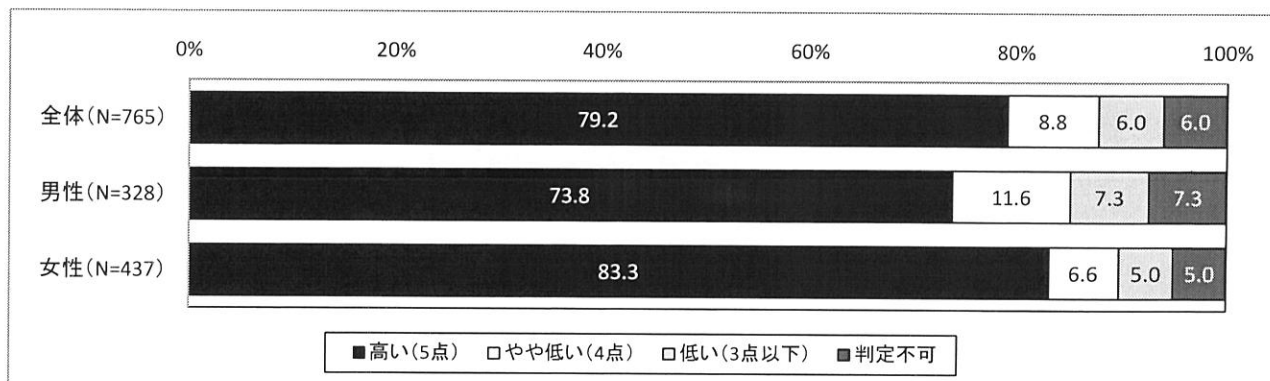
以下の設問でいずれか1問でも、該当する選択肢が回答された場合に、うつ傾向にあると判定されます。

番号	設問内容	該当する選択肢
問 7(3)	この1か月間、気分が沈んだり、ゆううつな気持ちになったりすることがありましたか	1. はい
問 7(4)	この1か月間、どうしても物事に対して興味がわかない、あるいは心から楽しめない感じがよくありましたか	1. はい

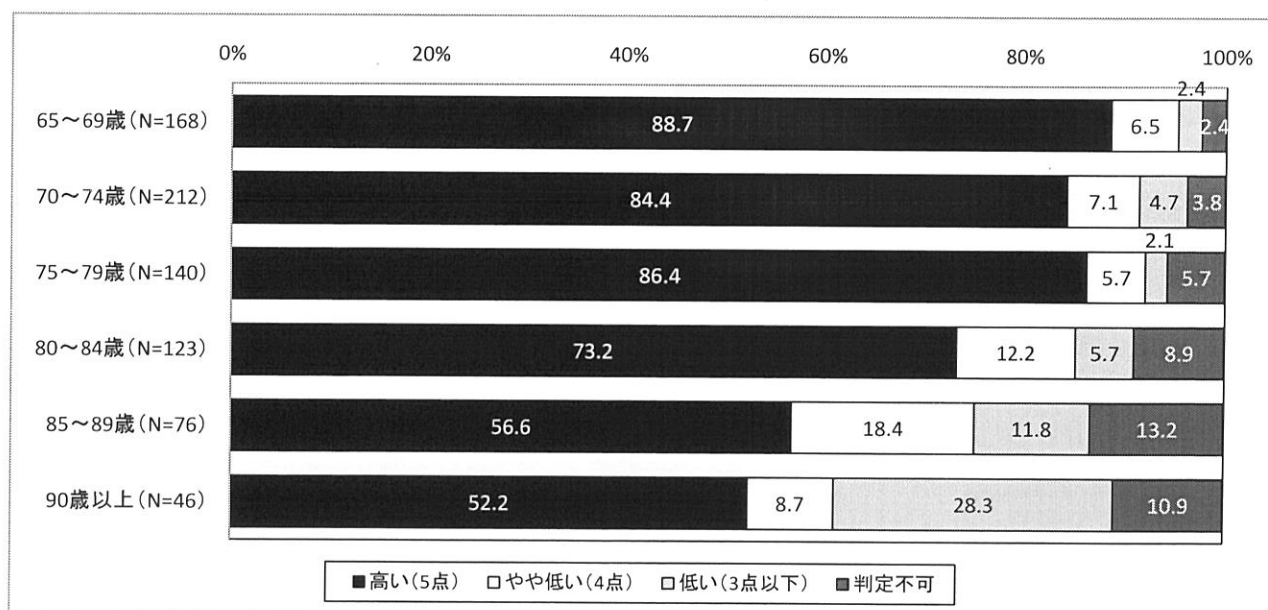
(2) 日常生活

① IADL (手段的日常生活動作能力)

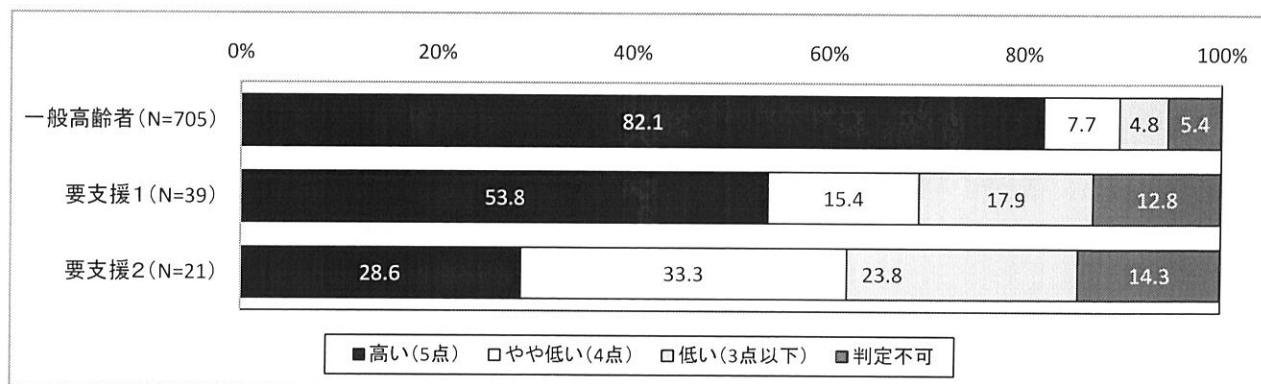
IADLにおいて「高い」に該当している人の割合は、男性 73.8%、女性 83.3%となっており、男性よりも女性の方が該当者割合が高くなっています。



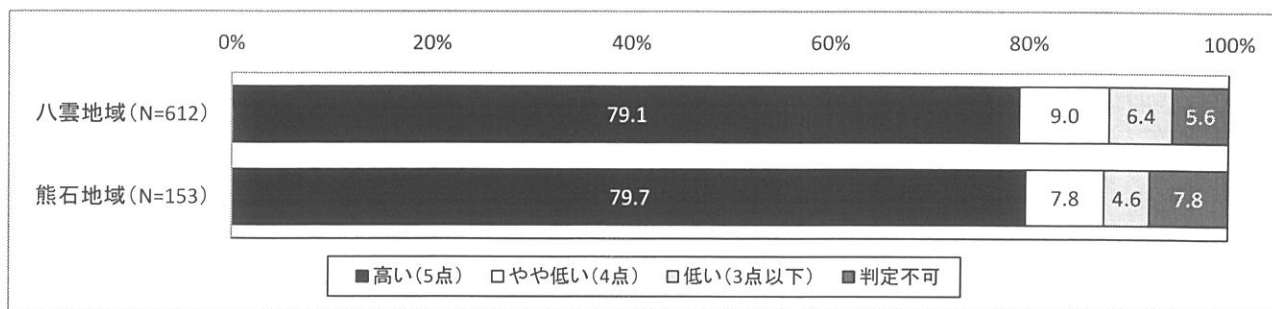
年齢別のIADLでは、高齢になるほど「高い」に該当している人の割合が低くなる傾向にあります。



認定該当状況によるIADLにおいて「高い」に該当している人の割合は、一般高齢者で 82.1%、要支援1で 53.8%、要支援2で 28.6%となっており、一般高齢者が最も高くなっています。



地域別による IADLにおいて「高い」に該当している人の割合は、八雲地域 79.1%、熊石地域 79.7%となっており、地域による差は少なくなっています。

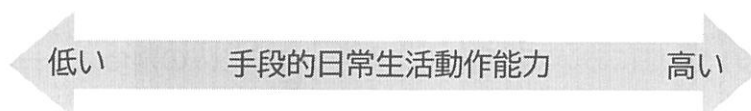


以下の設問で、該当する選択肢が回答された場合に各1点とし、その合計点数で評価を行いました。

番号	設問内容	該当する選択肢
問 4(4)	バスや電車を使って1人で外出していますか (自家用車でも可)	「1. できるし、している」 または 「2. できるけどしていない」に1点
問 4(5)	自分で食品・日用品の買物をしていますか	
問 4(6)	自分で食事の用意をしていますか	
問 4(7)	自分で請求書の支払いをしていますか	
問 4(8)	自分で預貯金の出し入れをしていますか	

【合計点数 判定基準】

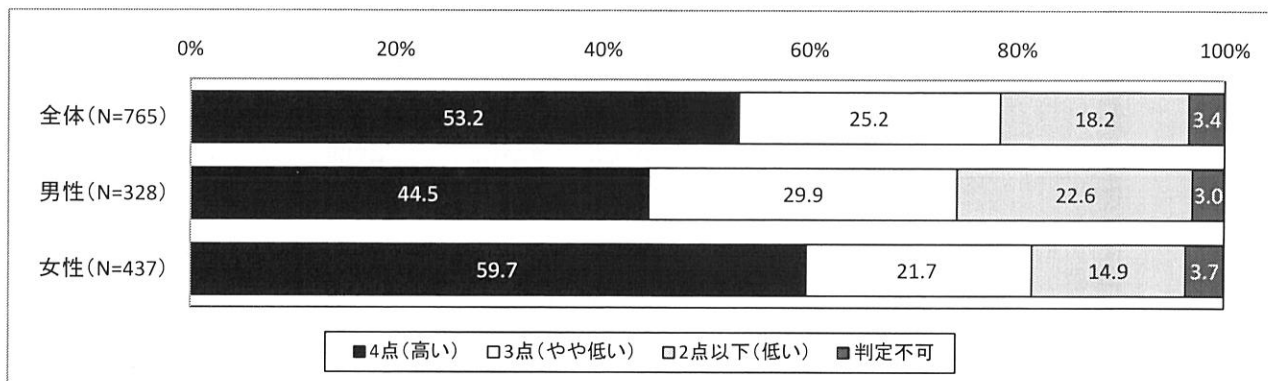
0～3点	4点	5点
低い	やや低い	高い



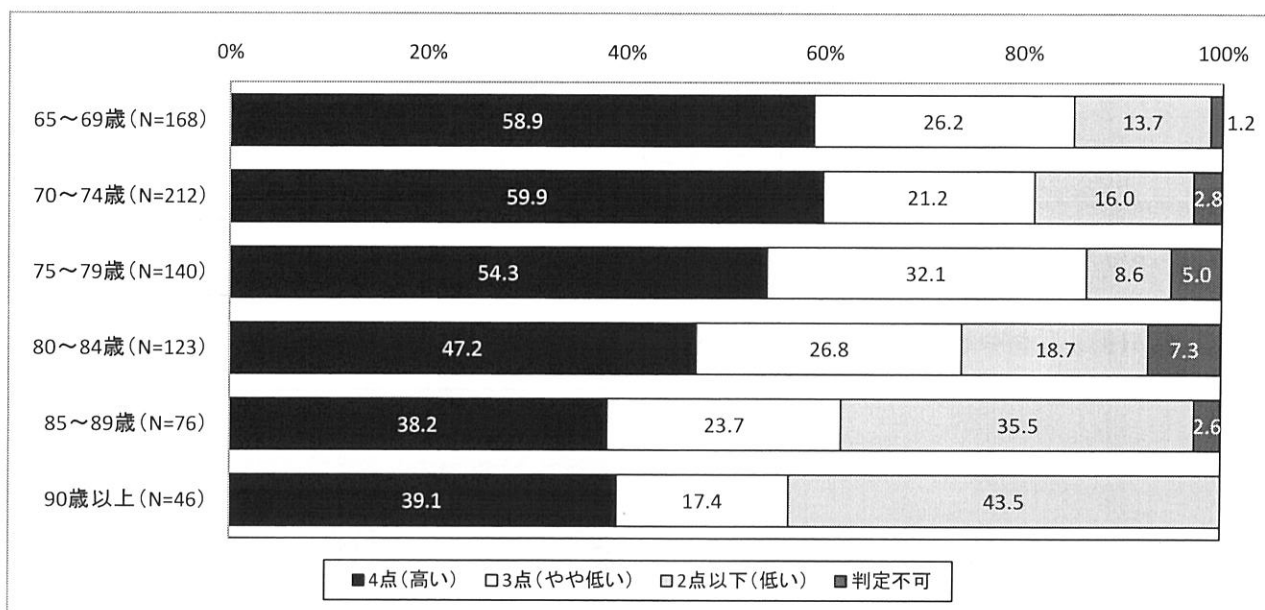
(3) 社会参加

① 知的能動性

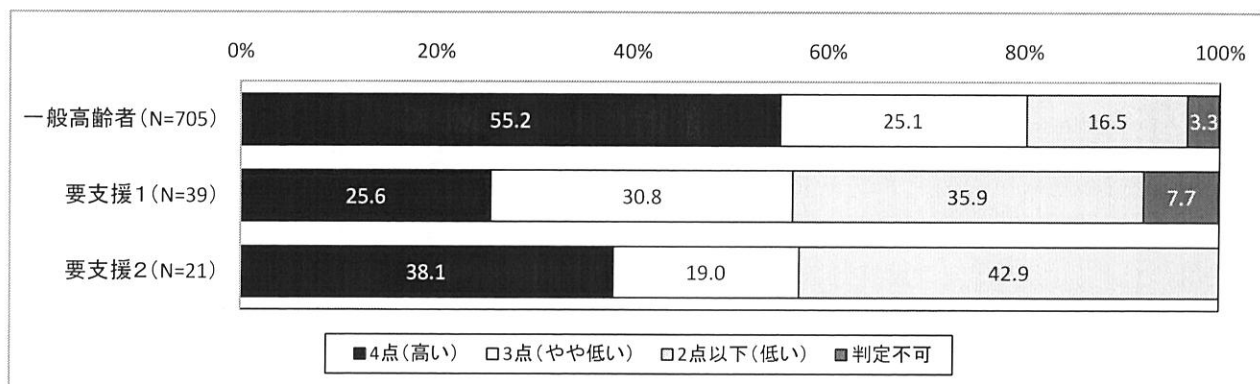
知的能動性において「高い」に該当している人の割合は、男性 44.5%、女性 59.7%となっており、男性よりも女性の方が該当者割合が高くなっています。



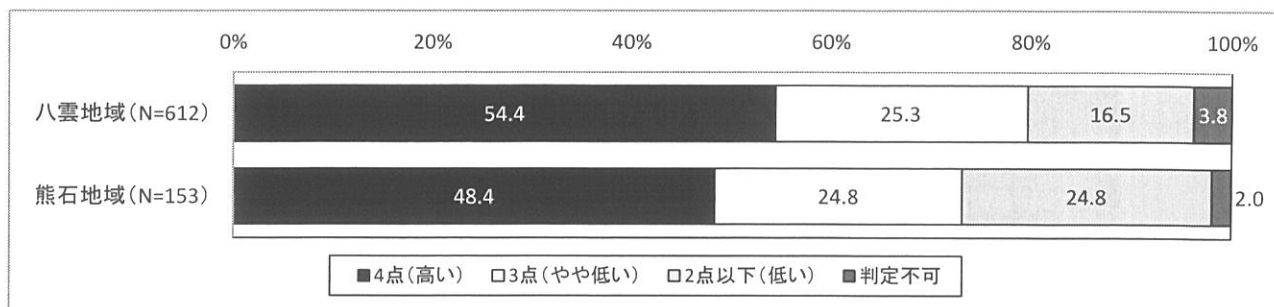
年齢別の知的能動性をみると、高齢になるほど「高い」に該当している人の割合が低くなる傾向にあります。



認定該当状況による知的能動性において「高い」に該当している人の割合は、一般高齢者で 55.2%、要支援1で 25.6%、要支援2で 38.1%となっており、一般高齢者が最も高くなっています。



地域別による知的能動性において「高い」に該当している人の割合は、八雲地域 54.4%、熊石地域 48.4% となっており、八雲地域の方が該当者割合が高くなっています。

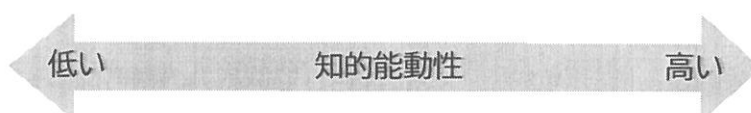


以下の設問で、該当する選択肢が回答された場合に各1点とし、その合計点数で評価を行いました。

番号	設問内容	該当する選択肢
問 4(9)	年金などの書類(役所や病院などに出す書類)が書けますか	「1. はい」に1点
問 4(10)	新聞を読んでいますか	
問 4(11)	本や雑誌を読んでいますか	
問 4(12)	健康についての記事や番組に関心がありますか	

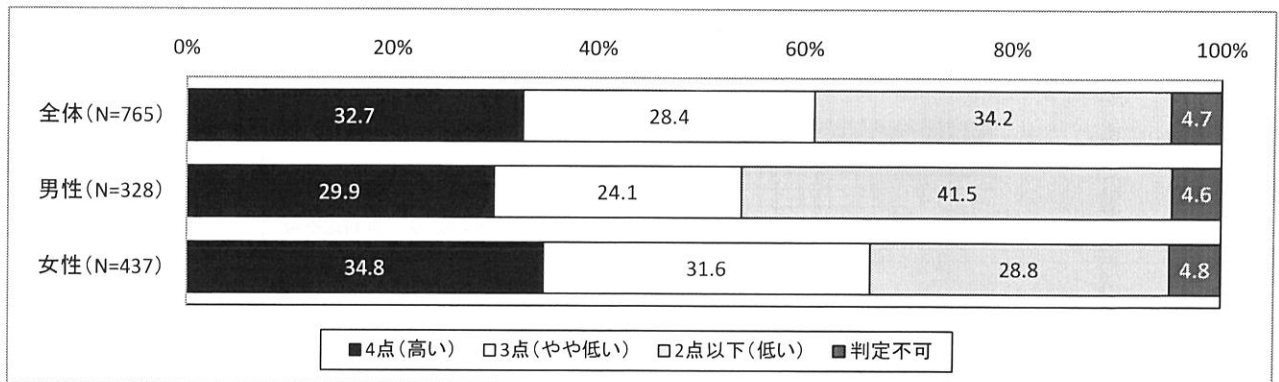
【合計点数 判定基準】

0~2点	3点	4点
低い	やや低い	高い

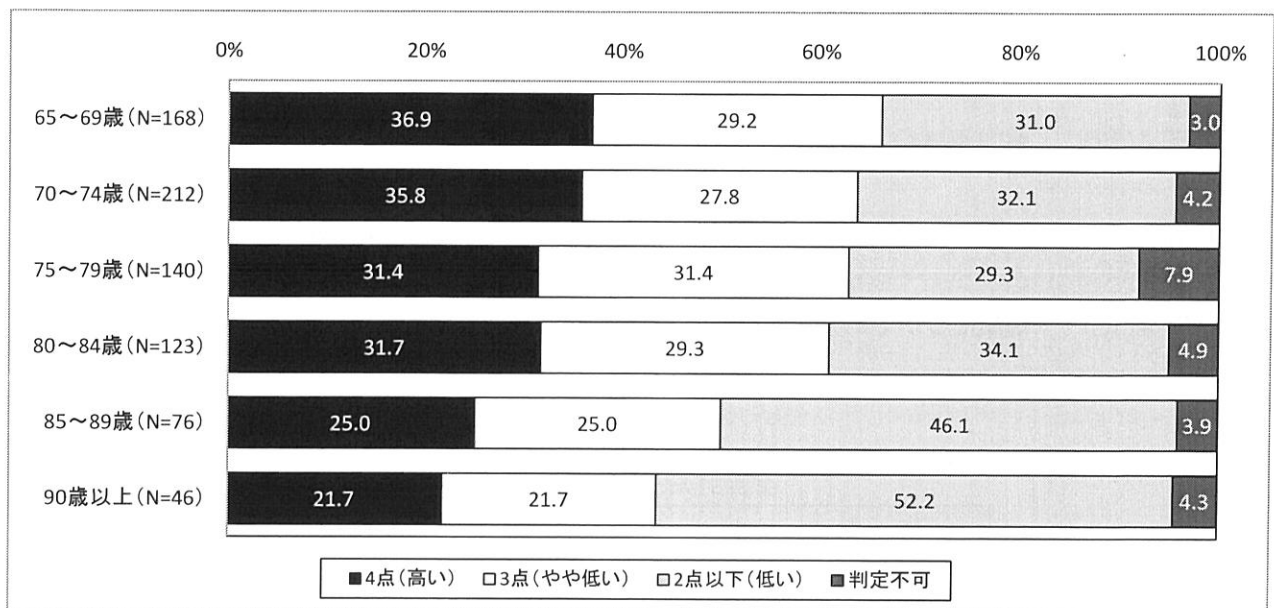


② 社会的役割

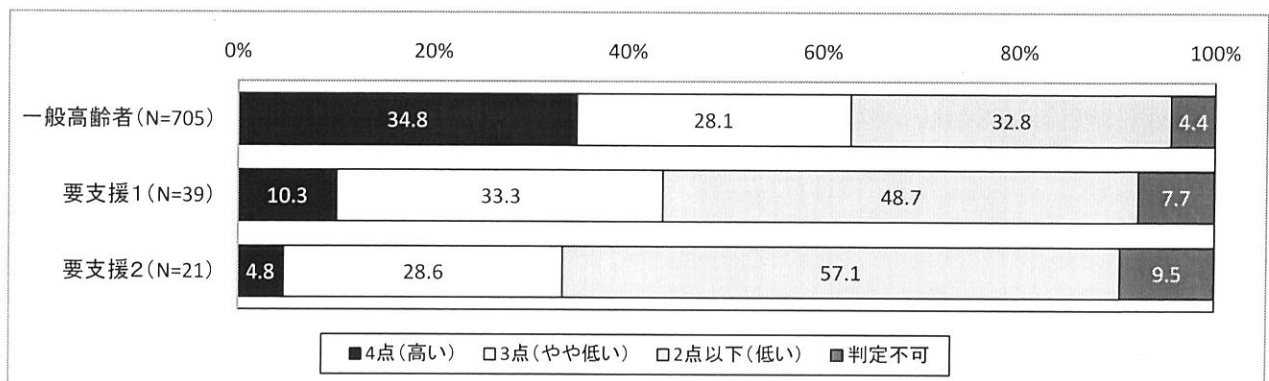
社会的役割において「高い」に該当している人の割合は、男性 29.9%、女性 34.8%となっており、男性よりも女性の方が該当者割合が高くなっています。



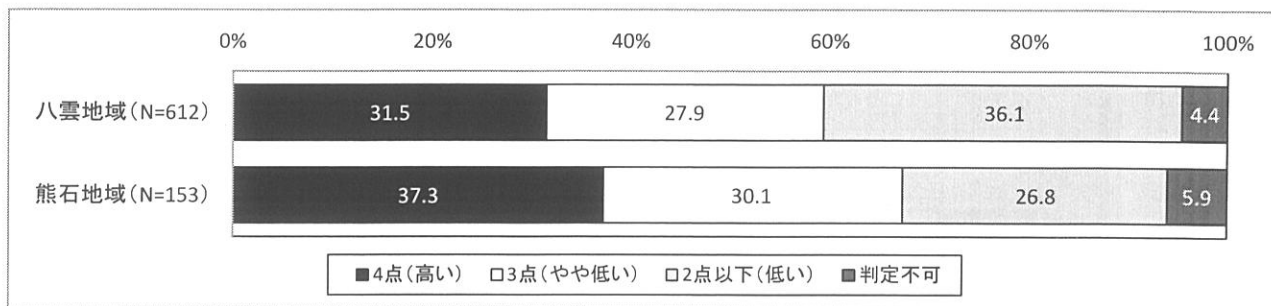
年齢別の社会的役割をみると、高齢になるほど「高い」に該当している人の割合が低くなる傾向にあります。



認定該当状況による社会的役割において「高い」に該当している人の割合は、一般高齢者で 34.8%、要支援1で 10.3%、要支援2で 4.8%となっており、一般高齢者が最も高くなっています。



地域別による社会的役割において「高い」に該当している人の割合は、八雲地域 31.5%、熊石地域 37.3% となっており、熊石地域の方が該当者割合が高くなっています。

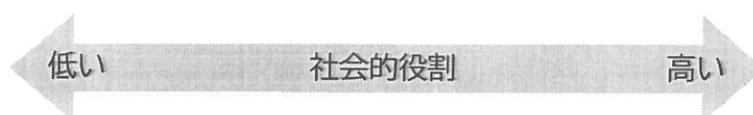


以下の設問で、該当する選択肢が回答された場合に各1点とし、その合計点数で評価を行いました。

番号	設問内容	該当する選択肢
問 4(13)	友人の家を訪ねていますか	「1. はい」に1点
問 4(14)	家族や友人の相談にのっていますか	
問 4(15)	病人を見舞うことができますか	
問 4(16)	若い人に自分から話しかけることがありますか	

【合計点数 判定基準】

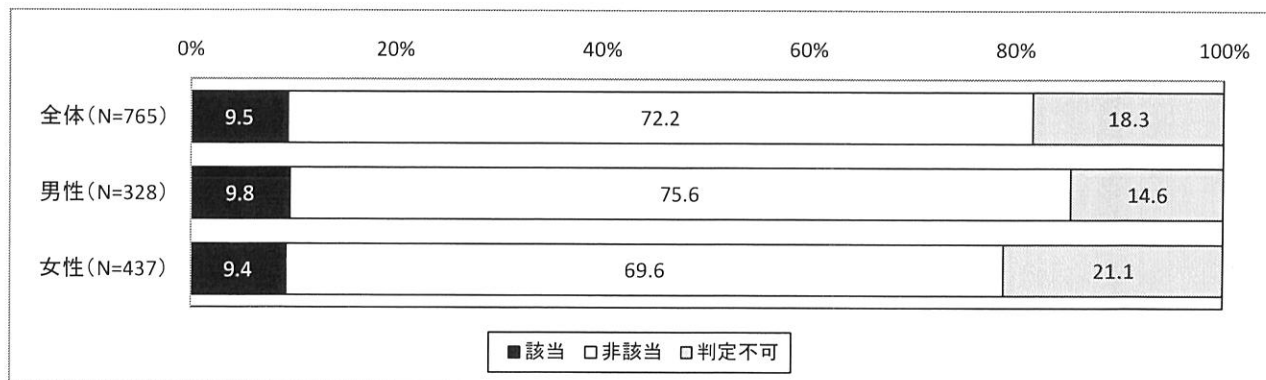
0～2点	3点	4点
低い	やや低い	高い



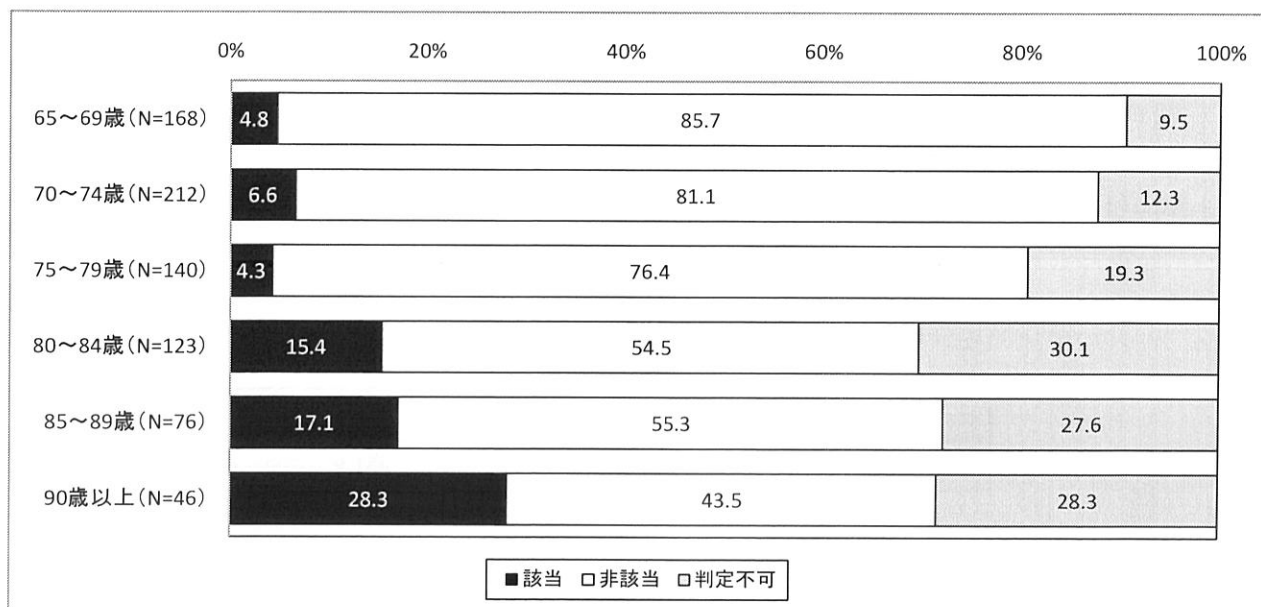
(4) 生活機能総合評価

① 虚弱のリスク

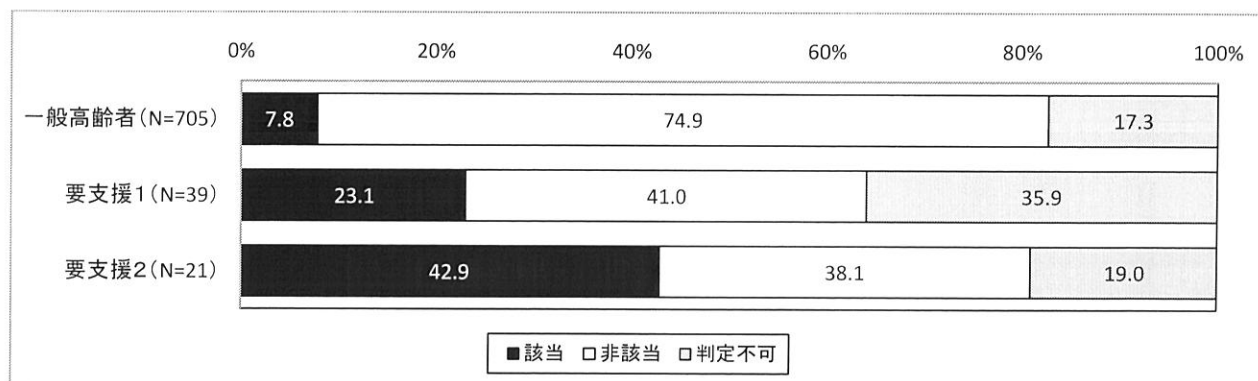
虚弱リスクありに該当している人の割合は、男性 9.8%、女性 9.4%となっており、性別による差は少なくなっています。



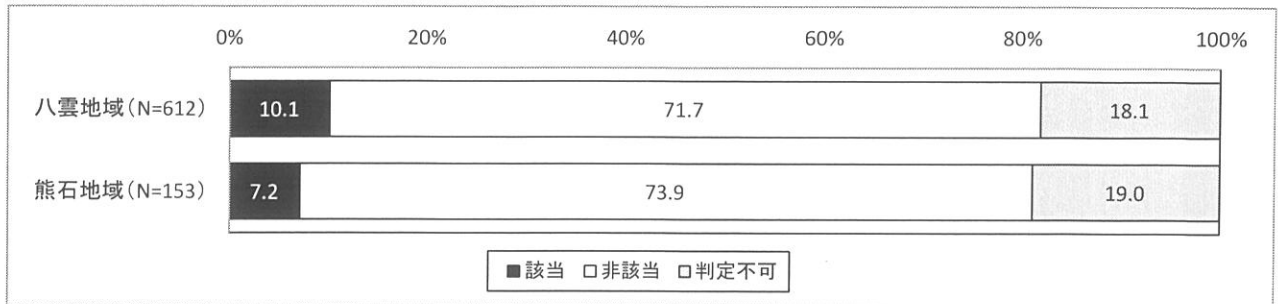
年齢別の虚弱リスクをみると、高齢になるほど該当者割合が高くなる傾向にあり、90歳以上では3割近くとなっています。



認定該当状況による虚弱リスクありに該当している人の割合は、一般高齢者で 7.8%、要支援1で 23.1%、要支援2で 42.9%となっており、要支援2が最も高くなっています。



地域別による虚弱リスクありに該当している人の割合は、八雲地域 10.1%、熊石地域 7.2%となっており、八雲地域の方が該当者割合が高くなっています。



以下の設問のうち 10 問以上、該当する選択肢が回答された場合に、虚弱のリスクありと判定されます。

番号	設問内容	該当する選択肢
問 4(4)	バスや電車を使って 1 人で外出していますか (自家用車でも可)	3. できない
問 4(5)	自分で食品・日用品の買物をしていますか	3. できない
問 4(8)	自分で預貯金の出し入れをしていますか	3. できない
問 4(13)	友人の家を訪ねていますか	2. いいえ
問 4(14)	家族や友人の相談にのっていますか	2. いいえ
問 2(1)	階段を手すりや壁をつたわずに昇っていますか	3. できない
問 2(2)	椅子に座った状態から何もつかまらずに立ち上がっていますか	3. できない
問 2(3)	15 分位続けて歩いていますか	3. できない
問 2(4)	過去 1 年間に転んだ経験がありますか	1. 何度もある 2. 1 度ある
問 2(5)	転倒に対する不安は大きいですか	1. とても不安である 2. やや不安である
問 3(9)	6 か月間で 2 ~ 3 kg 以上の体重減少がありましたか	1. はい
問 3(1)	身長・体重により BMI を算出	BMI が 18.5 以下
問 3(2)	半年前に比べて固いものが食べにくくなりましたか	1. はい
問 3(3)	お茶や汁物等でむせることがありますか	1. はい
問 3(4)	口の渴きが気になりますか	1. はい
問 2(6)	週に 1 回以上は外出していますか	1. ほとんど外出しない
問 2(7)	昨年と比べて外出の回数が減っていますか	1. とても減っている 2. 減っている
問 4(1)	物忘れが多いと感じますか	1. はい
問 4(2)	自分で電話番号を調べて、電話をかけることをしていますか	2. いいえ
問 4(3)	今日が何月何日かわからない時がありますか	1. はい